# 増補地錦抄　五六

182
10
158

帝國圖書館藏

ガラス使用

帝國圖書館

# 増補地錦抄巻之五

春木　木通

**あけび**　花うこん色なり　わらく枝多り　かて一たび百草ともいめづらしき　枝分キあまり生ずあまたの莟　ありとつかいりし

---

春赤木

**山査**（さんざし）　花白く梅花形実大　葉楼の山査の葉を　あかしきものがくよりて　酒のまよ入す

**さがん**　木は葉かも九輪がの　ごとく実さんのすき　かつ地かて風流九輪がのごとく

---

**おかだち**（ろうかん）　蠟柑の花は　あかくして　こうんのかがり又二三寸　わりそおりわ百六十日を　余をわりて路夫ろうかん　葉かも大きく味九輪ん　がのごとし

**蓑蠟柑**（まうろうかん）　つめのごとく　えんのごとく　みて葉丸しと実有キ　てあり

ぎせんかんるい之

唐山椒（たうさんせう）わさびさんせうのごとくつぎ穂
葉何かに柊花にてもよし
つよし木も葉も青のの
さんせうのごとく自然に枝
あり実はさんせうより大なり

苗代ぐみ（なはしろ）葉かも木も
今のぐみのかたち
あめしく冬に葉をむすぶ
花ありありて三月に熟す
もち此実の熟するを
人ハ農人田をうゆる
時分を見るゆへなはしろ
ぐみといふ

佛手柑（ぶしゆかん）葉ハくねんぼのごとく
実ハ柚のかたちよりうらん
うらかたちゆびのごとく
物柑多く出るあり花く枝
のごとく也

黄梨（ぎよあり）葉も花もすもゝのごとく
冬黄なるすもゝの黄に
とくあかく似てうるはしえ
どうりといふ

唐ぐみ（とう）花うす色三月の比あかき実
をむすぶ又事

白南天　葉も木も南天のごとし花も同じ実の
色白く文字のごとし
唐ハよろしく物柄高り
ませぞ珍敷

柊南天（ひゝらぎ）花よん正月より
二月の間に咲く
葉ハ柊のごとく実ハ黒く

紅下野（べにしもつけ）花形ハ下野のことく
花咲出る葉は

紫白丁花（むらさきはくちやうげ）花も葉も
ちやうじのごとく
花うす紫

木槵子（もくげんし）葉ハかしの木
此葉にて似て花
の色らん所よ多くあり
まり多て実まて熟す
ひとく一葉よ百ハの枝
をむすおとりに此実を
すぐて念珠よするなり
又すなぬ物

鉄じやき（ちやうじ）葉ハひらさき
の葉に似てこく
わさびあり青き実あり
実も葉も見ることなり

朝倉山椒（あさくらさんせう）色よし
ざくろに似て葉あらく

**薄雪**（うすゆき） 葉も木もこてまりの
まさんハ葉の先にさく
花りとさり形のかたち見
のごとく見らすあり
うの花のごとく

**寒竹**（かんちく） 竹のふしかつまりて見る
竹の子冬月より出
ゆへにまたまちとも竹
ともいふ

**にしきゞ** 花も木もとるミ
のこうたんなもの
とく花も白く紅葉よし

---

てひろりあり実つきて
見るかなり

**山茶**（ぢがく） 花のうち白花紅
ゆきさうあざれか
とくわつまりてさく
みすゑのつりさかやう
まて見るりのおちい
されせまぜい掛などく
粉もあのし

**紅木**（こうがく） 葉かたち木も長
まあことい葉の
とく木の形にて
枝のりよ出生ん秋紅葉
よし紅葉木はのか

**ゆんりん** 葉かへのやうで
のごとく葉か
葱（ねぎ）の色あり風情もあり
そぞ又葉よりて食すれ
取食の香気くさも血
造へとゞむ根をなどにて

**まぢ** 葉ちてやうて
のごとく秋紅葉
江戸とんてあり

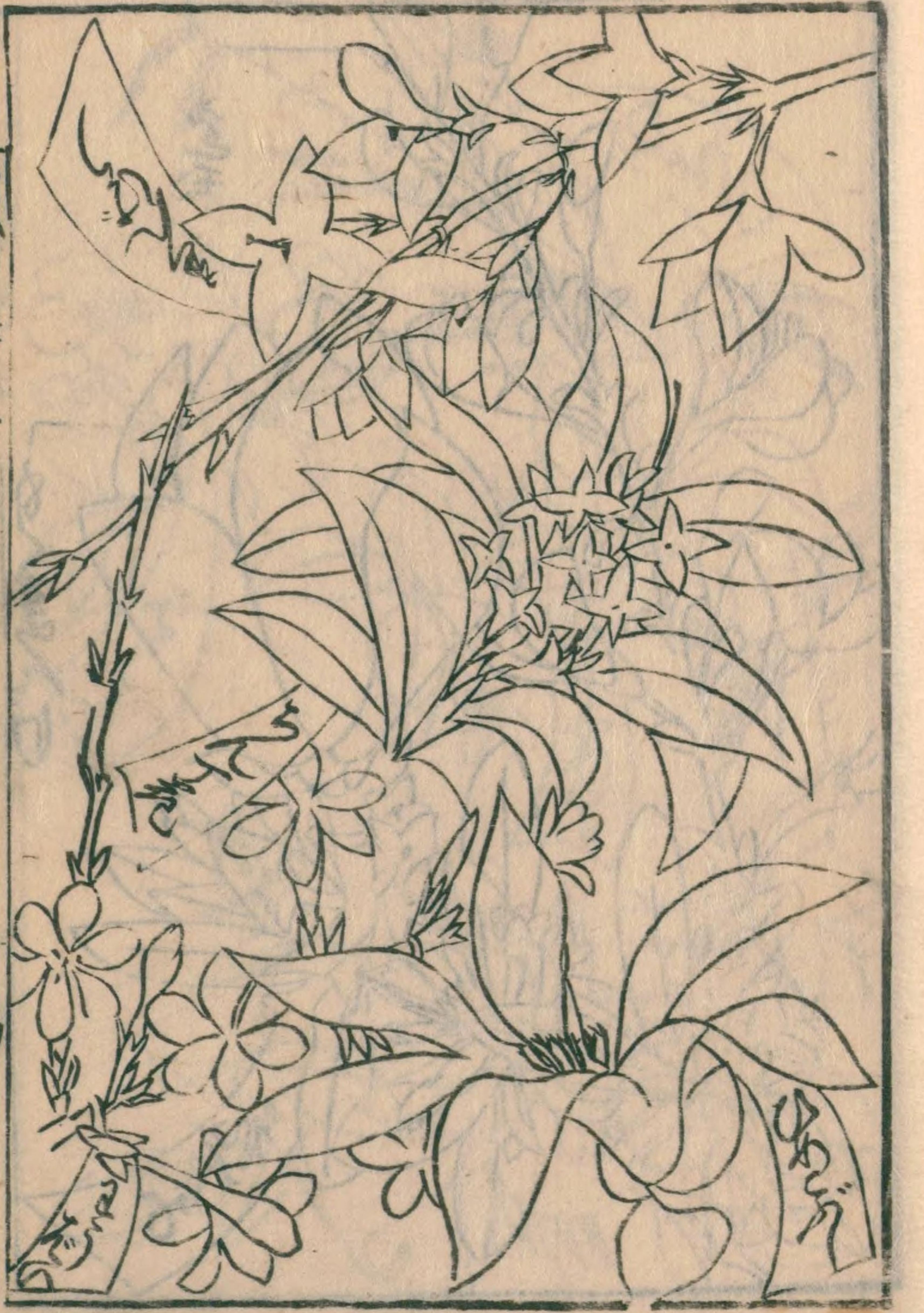
**ちぢ** 葉さきんざし
のごとく紅葉
枝のくるりそへべし

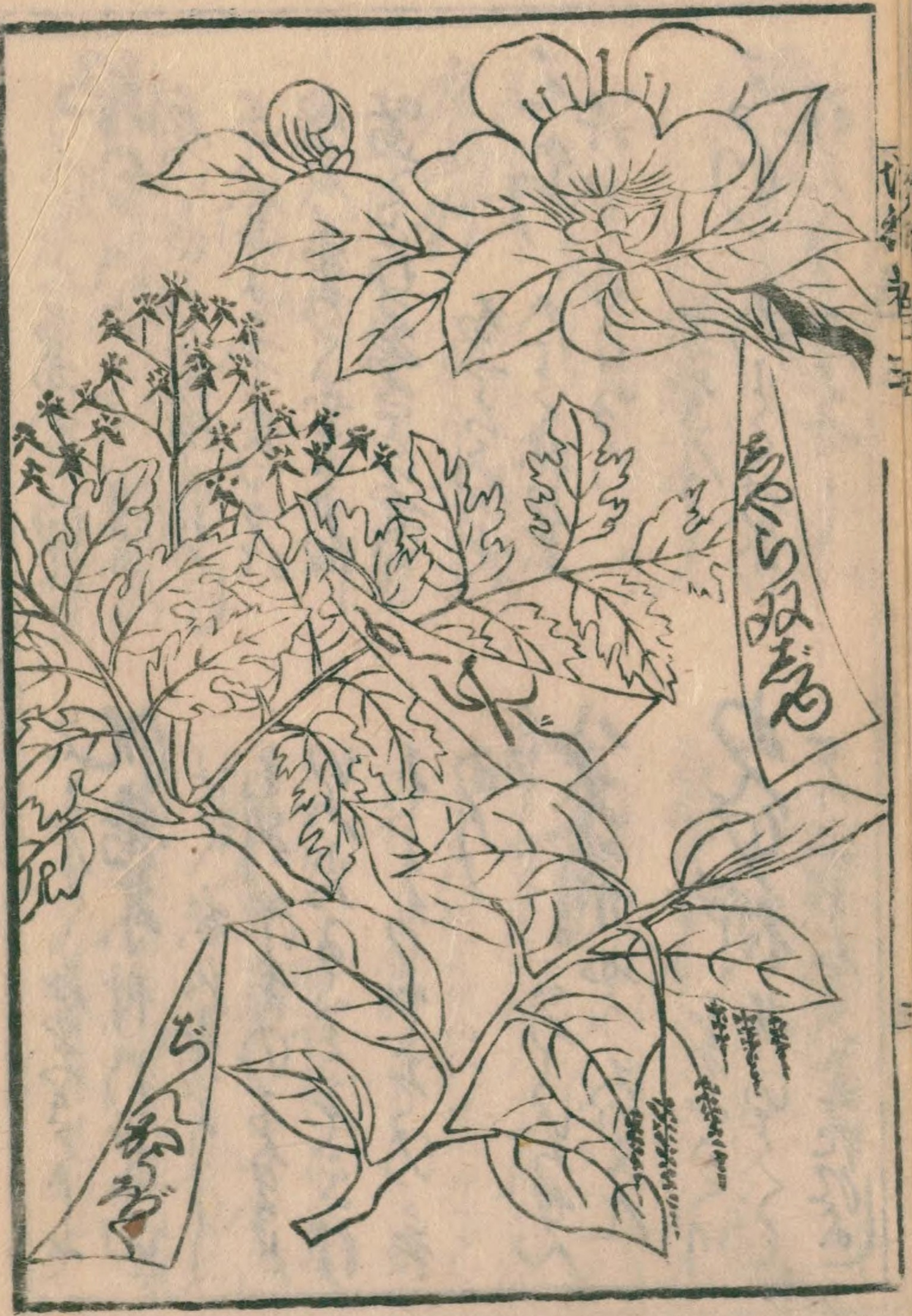
---

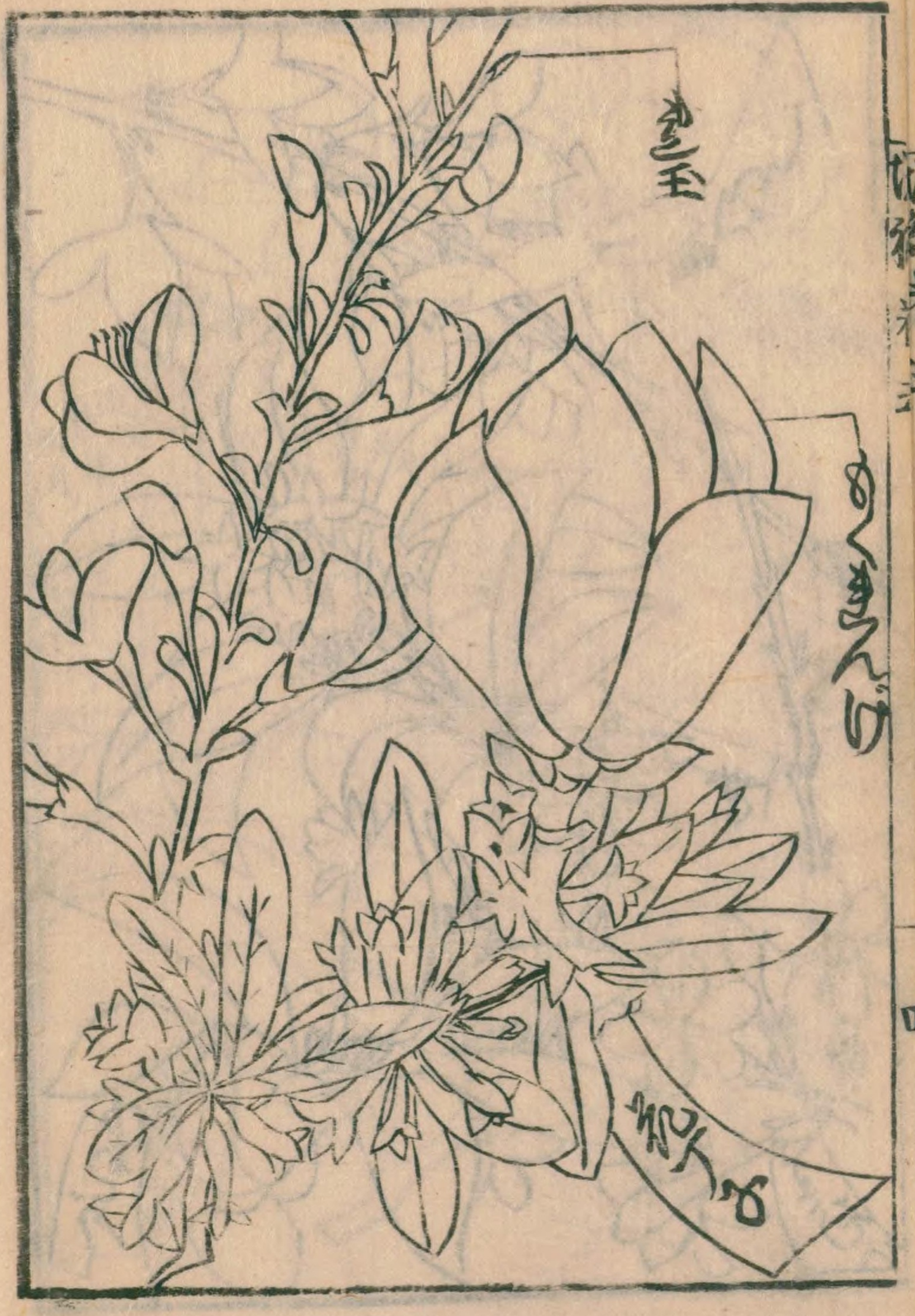
**沈香木**（ぢんかうぼく） 花まつさくしれ
枝の葉の
とく秋紅葉なし
先刊沈香の香すると
いかやうのさそさけ
だにいかれもその気
あり

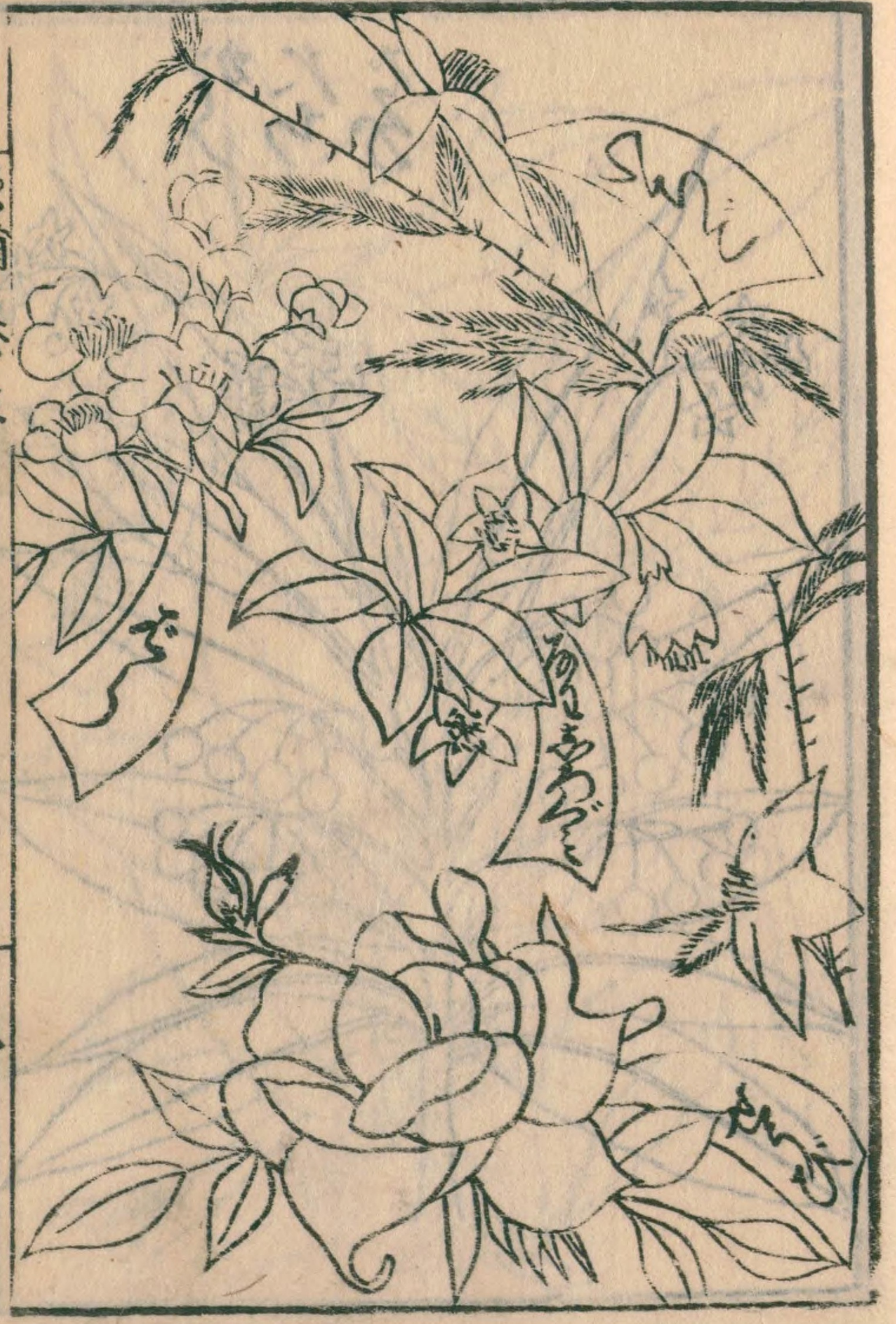
**八丈荊**（はちぞうぼく） さくいろせん
やうたつえん

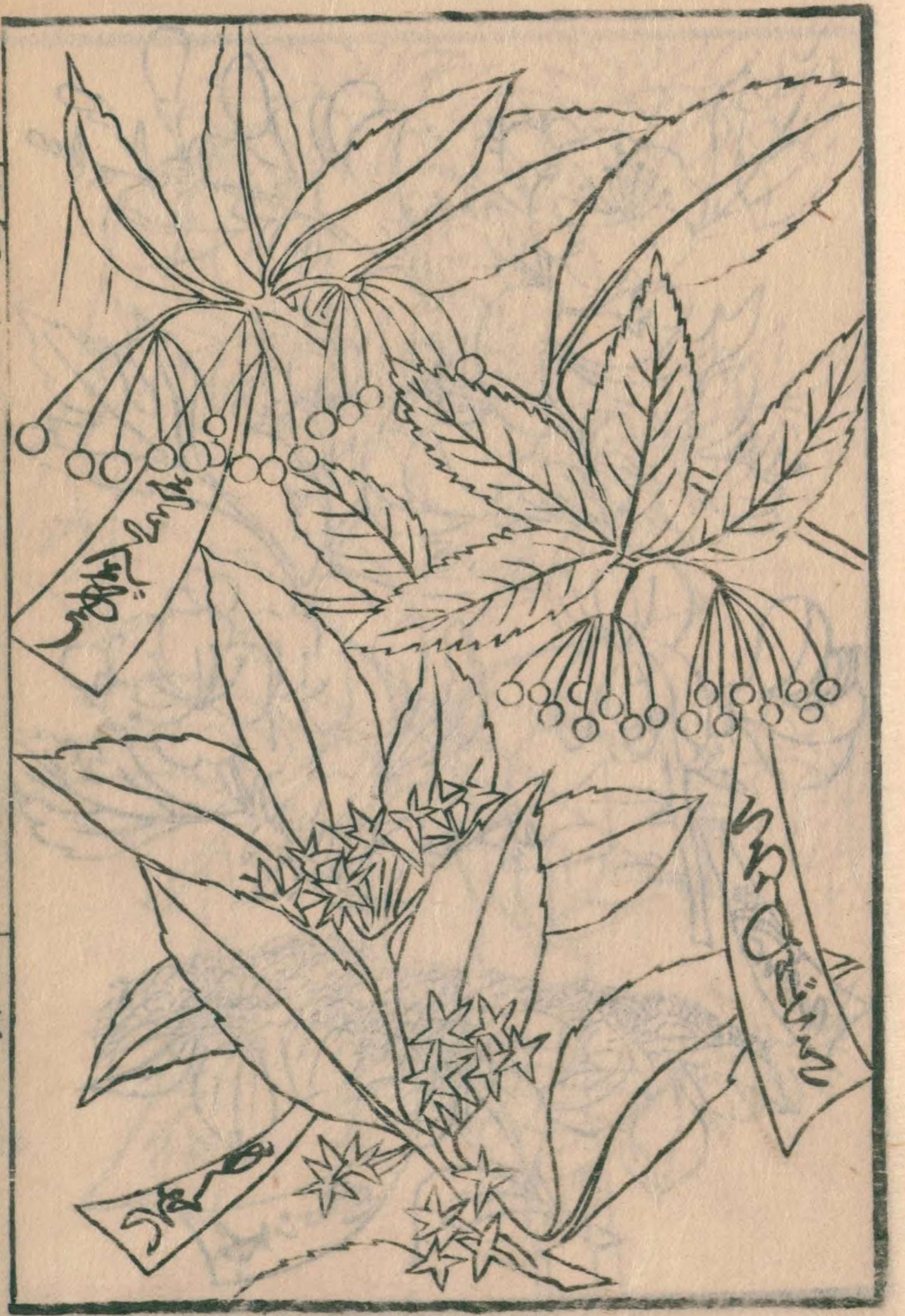
**ねんだん柳**（やなぎ） 葉かたちく川
柳のごとくて
ずり枝をたさくさ花はよし

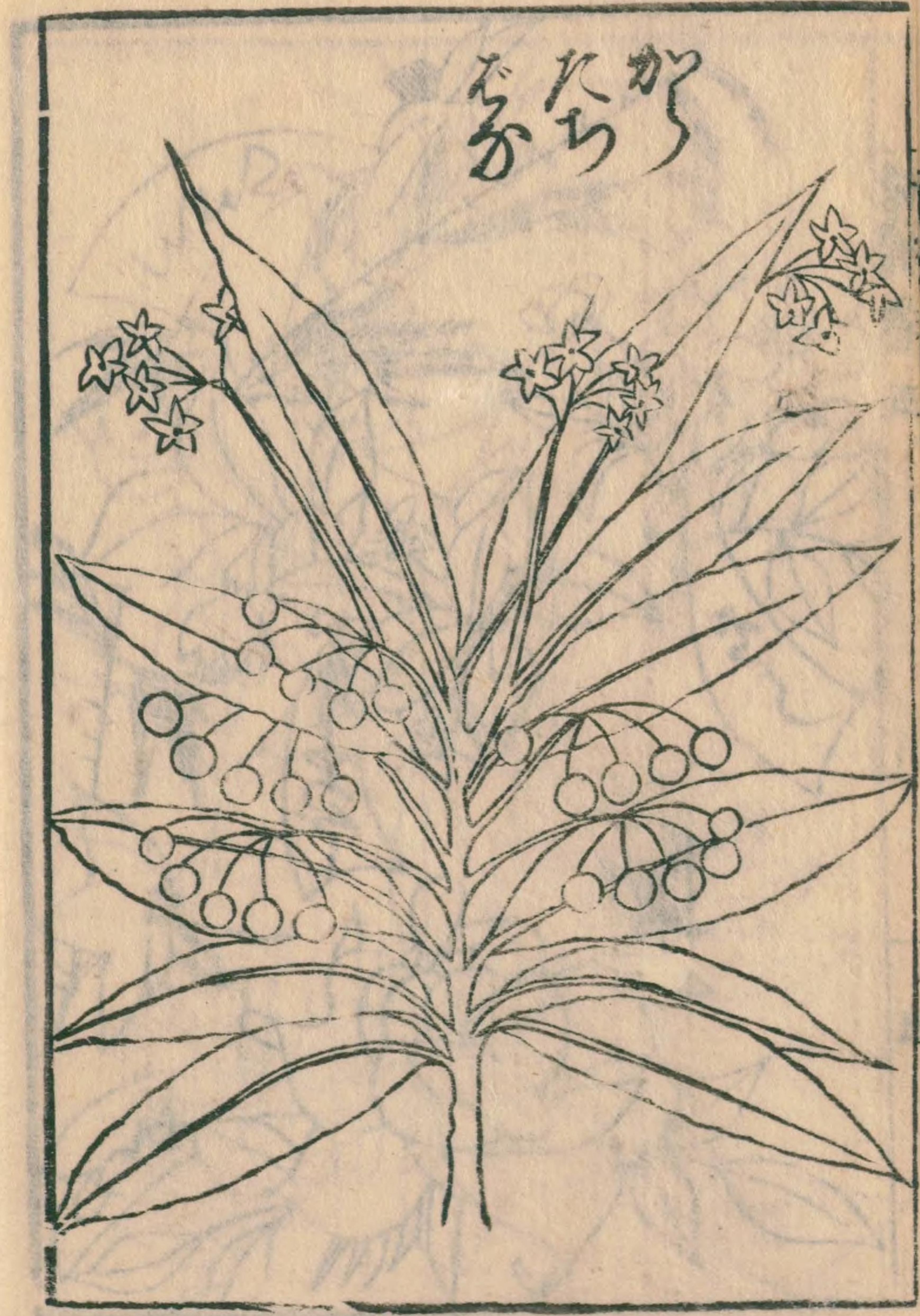

しやじん
ちんてき
ゆめじろ
[illegible]

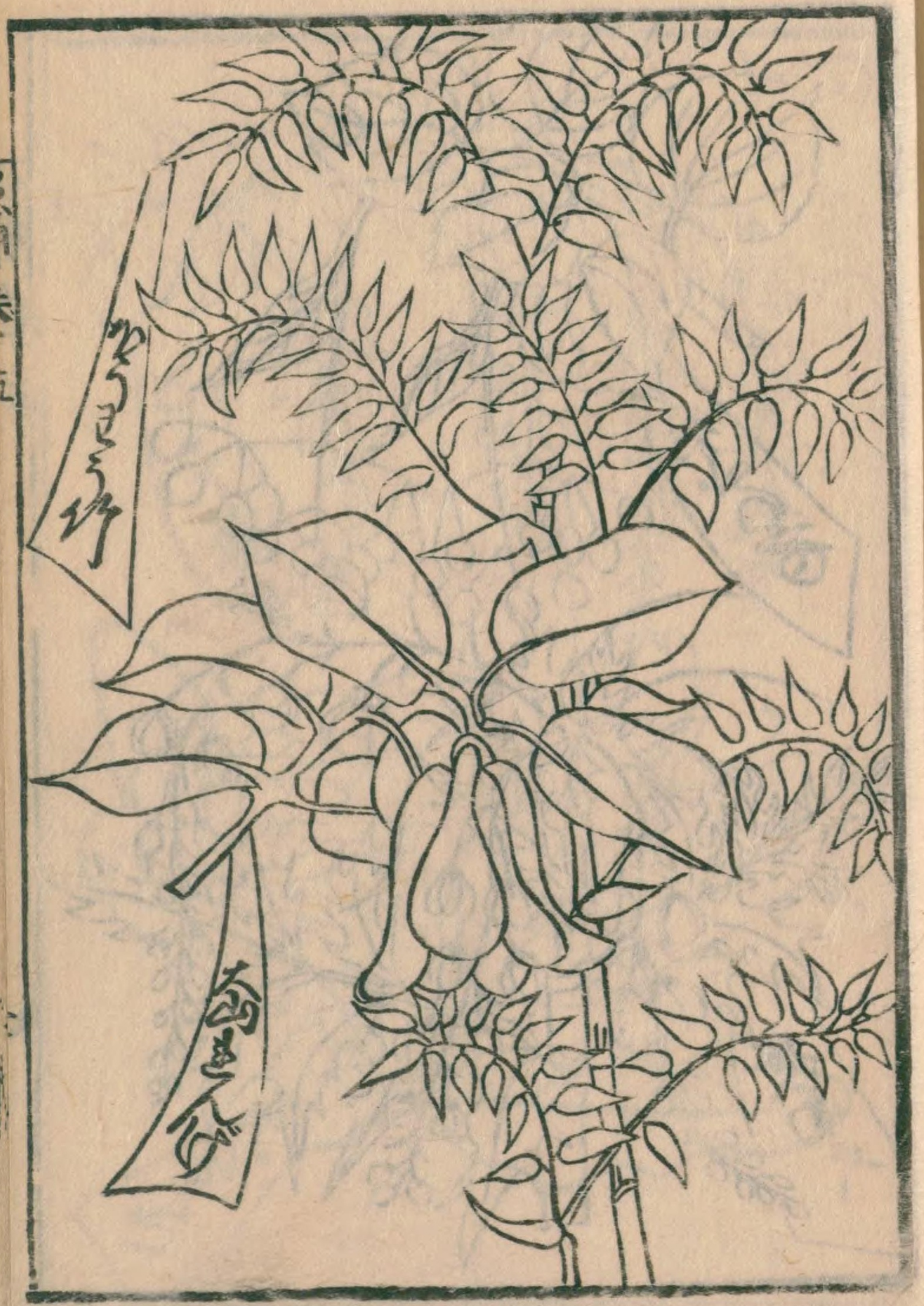

きやらみだめ
やぐ
ぢんあうぎ

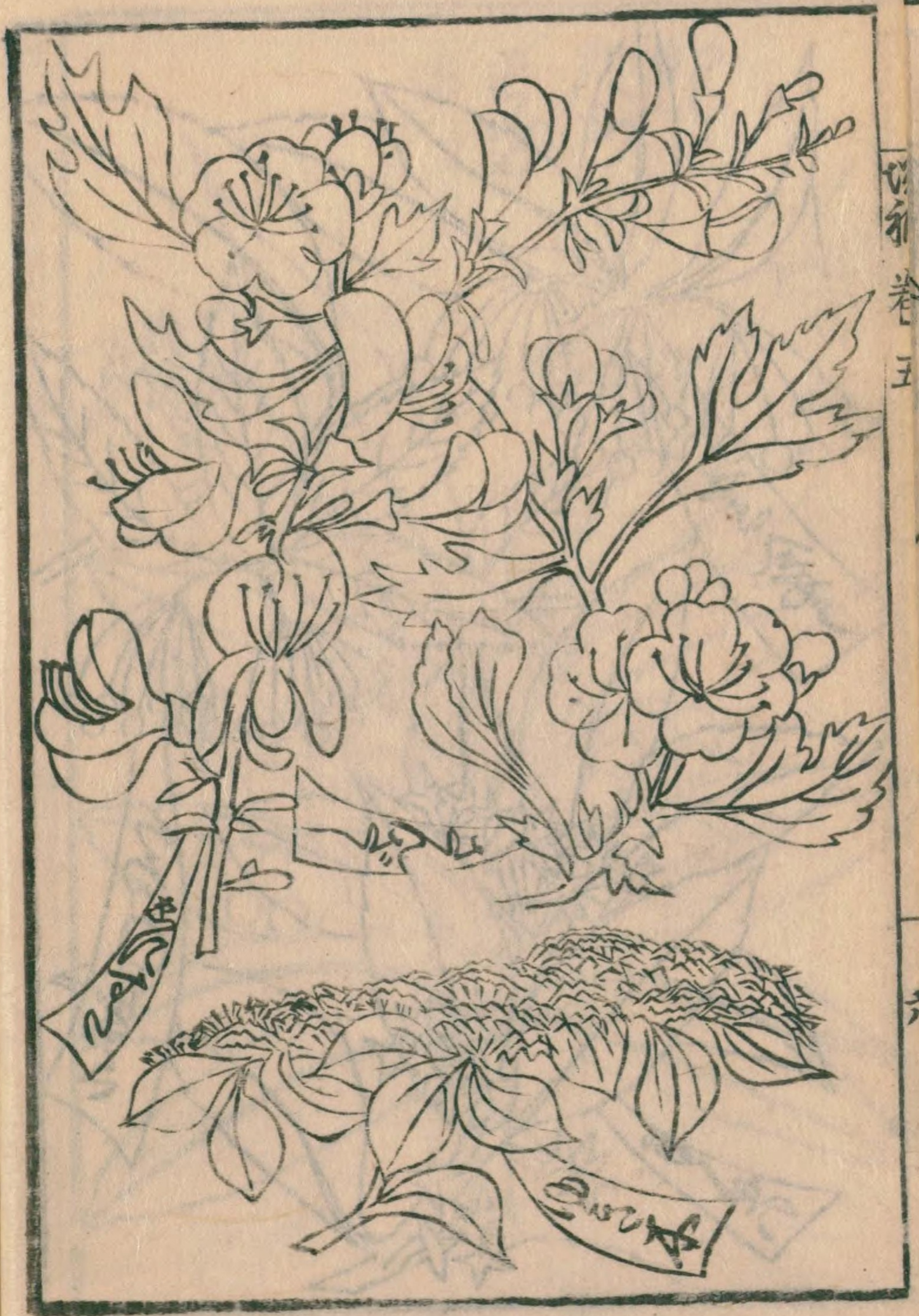

かし玉
もくれんげ
さんたんか


きんし
ざくろ
ありまうづき
紫
ぼたん

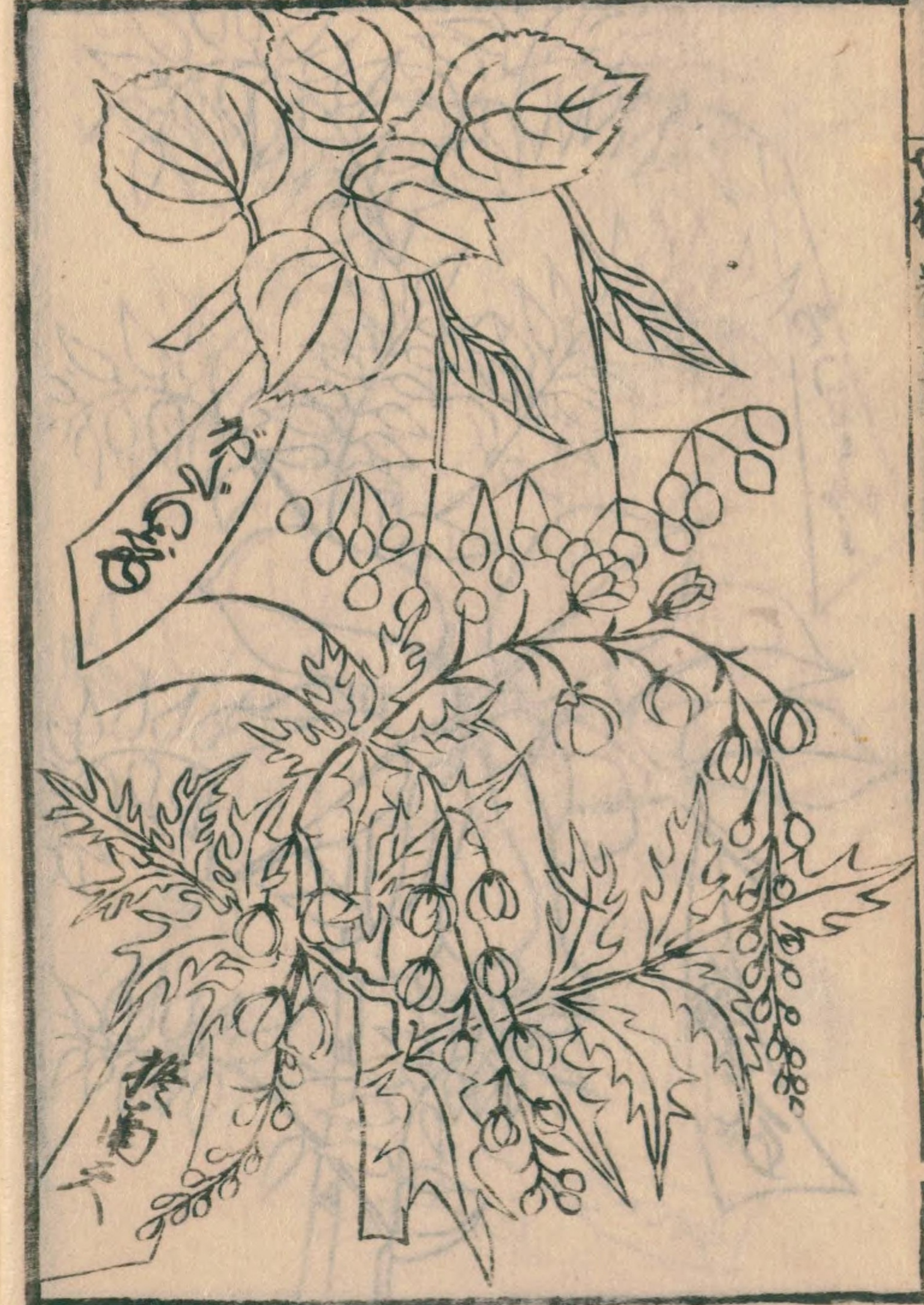



からたちばな

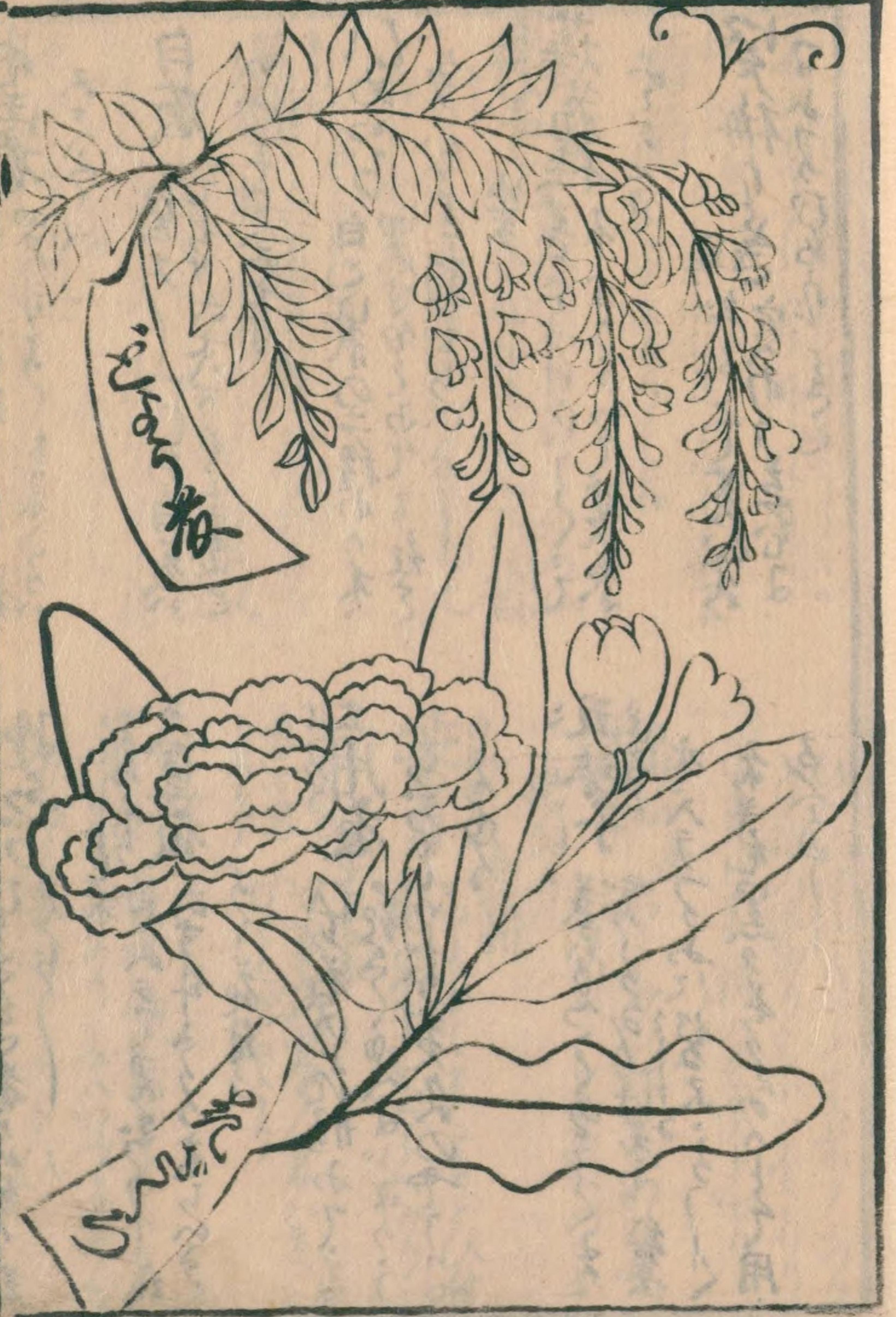




ガラス使用



がごめ
[illegible]



ざしゆう巻
ざんじ

野田藤（のだふぢ） むらさき花ちいさくさがりて四五尺斗よりおもむきある
みごとなり

白藤 花ぶさ一つ〆の白藤ハ なかさ廿六七八寸も白藤と
いふハ長さ五尺乃七寸

ひめふぢ 白と紫の二種あり木ハ 四五寸やしなひても花さく
ありむらさき花もちいさし

藤茘桂（まめざくら） 夏末 葉ハ木つげのごとくにて 木ニまつはいて生ル花
むらさき

蔓梅もどき 通 葉ハ〜そ黄ばみ 実あり赤くむな
つるむめもどきとも

---

地ふぢ むらさき藤のごとく有花
ちいさし

大豆藤（まめふぢ） 春末 白き花しほらしく 六寸斗さがりてちいさく
しておく花付よし

土用藤（どようふぢ） ひめ藤の花形にて夏 花さく此ゆへにどよう
ふぢといふ黄色の中うつき
見ゆる

五味子（ごみし） さねかづら 葉ハもつこくのごとくにて やゝくろみあり 此葉をきざみ髪 水ニ入テつかふに髪ねばりつく 赤き毛黒くなるとて用
る人多し

---

木天蓼（またゝび） 通 葉ハ忍の木のごとくかづらあり 料理ニ用ル

葡萄（ぶどう） 秋 大ぶさ小ぶさ二色あり大さ
ハ色くろくさがりて吉

絡石（ていかかづら） 通 葉ハまさきかづらのごとく ささめありかうじ乃花 葉ニまとひ付あつてしきやと
ぐるまの花

連翹（れんげう） 春初中 花黄色小りん四花あり 木ハ桂のごとくにて又
ぐつすむの一二種あるべれ
れんげうといふハ木かくれそれ
やまぶきのごとし花ハ同じ

忍冬（すいかづら） 夏初 花はじめ白く咲て二三日過て

---

ひかんせきといふ実赤くなる
より秋の比あり葉ハ冬もあり
此実ハ薬種の五味子なり

通草（あけび） 通 ちよとあり秋実あり味 あまし 薬種の木
通あり

凌霄（のうぜん） 通 秋初 かつらにて木ニまとひ付
花ハ赤くたいりんあり

金玉（まんさく） 通 春末 花黄色小りん木ハまん
げうニ似たり

黄梅（わうばい） 花形梅花のごとく黄
色あり木ハかづらのごとくも
かずれんげうのるひ

ガラス使用

花の色茶ゝ故ニ金絲花と云
かづらとも云ふあり
碧玉花（へきぎよくさ）葉ハ段ハのつさのごとく
末ニまるいでのかうる文
よく〳〵見れ付のかうかと秋紅
葉ハするゝの如葉

○荊棘（いばら）乃るひ　通

はまなす　夏末　花こいむらさきひとへ
大りん

長春（ちやうしゆん）　こいむらさき中りん
八重あり四季ニ咲
四季ともにさく

---

通夏秋中秋初
百郭桂（へくそかづら）葉ニおしき香あり白紫
葉小りんのむらさきもちう
とりうるもの云

らうざ　花さくらのいろニ光り金
ひとへ大りんちらさん
四季す　八葉接ニ用

白丁花（はくちやうげ）　八重白四季ニ花咲
株のかまりあり

---

将く長春　きれいひとへ四季
咲さく

牡丹荊（ぼたんいばら）　夏中　紫八重と大りん

ごや荊　夏初　八重白中りんうす赤

箱根荊（はこねいばら）　夏初　白大りんひとへ

荊薇（しやうび）　夏初　花形薔薇のごとく冬
うらん上を

○辛夷（こぶし）のるひ　木

こぶし　春初中　花白八重ひとへあり

---

夏初　くゝ荊　八重てうへあり白咲
中りん

のうせん荊　夏末　白大りん花形
つるきのごとし

山椒荊（さんせういばら）　うす紫八重中りん葉
さんせうのごとし

唐荊（たういばら）　夏中　白八重大りんありつかど
せんやうありの花形
のごとし　まてきかど白し

しでこぶし　春　辛夷（こぶし）　白八重ひとへ
うす紫八重

葉かしはのごとし一名を木
蓮花と云初ニ葉かれずして春
のごとし
白蓮花（はくれんげ）春中 白もくれん外ニ花形よく大りん白色
かてまんげのごとし
玉蘭花（ぎよくらんくわ）春初 こぶしのるいニて花形
よし玉蘭花とも云ぞ
こぶしとよりせう〳〵おり
花でこぶしハ名別の也
むの出かうとも云なり
きさら又又名 夏中 葉ハ桜ニはて花
白く大りんつぼ
さき花形あり花ハ一月も見咲
あつむ又ニきやむ色次の也

一重ありひめこぶしたえ
りくまんげ（木蓮花）春中 木まんげ白まんげ
木まんげハ花色黒むらさき
もそさうさし
玉蘭花 玉蘭花同色まで
こぶしのるい也
あ全ざ 葉かのくまんげニか
梨子（なし）のごとし にて色実あり形
うきき 夏初 葉ハ沙羅双樹のごとく
花ハ白大りんそも一重ニ四葉ふて付
四能て付

---

める又咲て落こと
○木槿（むくげ）のるひ 木通
赤木槿（あかむくげ）夏末秋 花白ハそこ赤く又のそきくげわり同花あり
又濃（こき）とうすき二種あり
紫（さ）ちりめん 夏秋 むらさきちりめんひとへ
そうまりハ 夏秋 花形木槿（むくげ）のごとく
夏ちらん

はなしびて咲物なれバそこ也
ひらのむすたくさんと云ぞ
ろ〳〵ましく白花口赤がふと
〳〵大きこさ〳〵ふ花あり一名
山茶（ましくい）ト云
白縮緬（しろちりめん）夏秋 あつかど白大りん ひとへ
こすず 夏秋 ねぎをいろの中にて ハそひとへあり
大りん
そこあか へうすぎいろひとへ八
かさをさ花の中わたし
はなひらくあり白ほか八重

ひとへの雪白ハ中京ニあり御所
花ハ紅ニ咲て後ニしぼむ

○柳（やなぎ）のるひ木

独揺柳（しどりやなぎ） 木ほそくしだれ糸のごとし

めやなぎ 立花ニ作りふめ枝く木しだれていとのごとし

冬中よりめ大キク見ゆる

○梨子（なし）のるひ木春中

こがなし 花ハ白し梨子より早クかくなり

しだれ いとしだれなり木細し

みどり柳 楊（やなぎ）花よつてふとのごとく柳やなさき

青梨子（あをなし） なかわそくもし

水なし 実りわろく丸し

まつを きんちやくのごとく

まつめろ 花ハくいだく咲くなり

涌梨子（しまなし） 赤くちいさき実ありもゝなしすらふ

○柹（かき）のるひ木

でんない 大キク平丸上々

こへうたん 平大きし

きんとんど なし大キクよく味よし

きつまん 花ハつまんどのごとく

きさし かひゝめなり

枳椇（けんぽなし） 実ハまがりく細りくろ熟なり味ヒ梨子のごとし

さ山 かたなし中ころい

さくらさゑ 大キク平し名所通り正

甲州丸（かうしう） ゆすらハ丸し

加羅（きやら） ゆすらハ丸しろくて中ニむらさき粉あり

大平 大キク平

わきまき ちいさくして小梅かどあり数多く付也

きちや ほそ長く大きし あかど きぶしあまぼうしニまろ猶あり

○

栂ろひ（くう）本 四季ニ花咲也

甲州大丸 大キク丸しみごとニよし

大橙（くき） かたそ長く大きし あまぶし

八石蘂 つかそ長く大きし

さぞろ 遠らハさくして花ぶしよくきぶニ花を用ル也

夜六 とつくさき花あそ長くきぶし

---

だいく 花蕾二月ル代くあり 実ハ二つ又年も房

密柑（みつかん） 大小二種有 紀州出ヨヒよし

雲州橘（うんしうたちばな） ちいさく家

橘柚（きつゆ） ゆずのごとくにて又ふ経の味ありあるハ山林の香ありさいつ月を経んびて云

金柑（きんかん） 花ハきんかんニ似たり

枳椇（こくく） かふらちのうすくきをヲこきぶろよし

ふ神介 花もむもだいくのごとし

かぶし きんかんの如くにてちいさし つらなりありと山城国八幡宮御神木すみのうら洋殿ノ方ニ有ヨ流しね

柚子（ゆず） そのゆあり花ニ石榴といふありまろし 又さくゆハちいさくすし 花ゆと云

橘（たちばな） きんかんよりちいさくかうじのかうじんゆかうじと云

紬 あゆみやくさしへふくず

南都 南円堂ニ御札札とう

○栗（くり）のるい　木　夏初

丹波大栗（たんばおほぐり）　料理ぐりと

杉毋栗　くりちいさし　八月初　七月すへニ熟く

志ばぐり　くり中ちいさし

従栗（ひやくぐり）　くりのかくして唐蓮（れんげ）の　ごとし

○山椒（さんせう）るい　木

朝倉（あさくら）　大葉小葉あり　木と葉と実　ある木ニとげなし

---

くり木あり　四月ハなら花とこ　ろくし

三度栗　一年ニ二度花咲て　なる

志だれ栗　くりちいさし　木志だれて柳のごとし

箱根栗（はこね）　くりちいさし

柚之せう（ゆ）　葉四季共ニあり　白花　まゆの香あり

---

日向せう（ひなた）　これぶかく花咲よし　実よさんせうにひと

柘榴（ざくろ）木　夏中　花ハ色々の花咲秋実のる

甘榴（あま）　夏中　花ハされい一重　実あまし

雌漆（めくろし）　木　葉ぢさのごとく秋に　紅葉するその色よくそり

実ハ女中歯黒ニ合入て（えふ）　わもし一名石榴木ともいふなり木をも云

楙榜（すておう）　木　夏中　花つくれなひむらさきの　やうニてこまかなるまま　ひしとうゑつけて咲さ花ゆへニ

---

いぬせう　料理ニ不用

花柘榴　木　夏中　花ざくろハ八重　実なし　白ハ重　黄ハ八重　花ざくろに二重八重

漆（うるし）　木　葉ハうるみのごとく木ニ　うるしある

うるみ　木　うるしの葉よりほそくて　その形のごとし

もくろじ　木　葉ハうるミのごとし　実の黄色ハ羽子ノ黒キ　わりつらぐんすくのことし

紫陽花（あぢさい）　通夏中末　花形ハ鞠のごとく也

あさうの花ハゆくらり木ニハ冬も
あくたさじの花ハあるあし

**がく** 通夏中
わぢさいのひとへ也又白
と浅黄

**美陽**（びやう） 通木夏中
花ハうんなん花中ニ金の
かざりあへ一そといりて
あり葉ハ柳のごとし

**下野**（しもつけ） 通木夏末夏中
花白トうすべにの二色あ
花形ハこでまりのごとく

**小でまり** 春とつけの花ニて木
ちのびやか花咲て
まてふさのやうく立むニそで
うけとりそ出ふハ花あまり

---

わさぎわらぶ花わり

**耳茶**（わまちや） 通夏末
花秋わぢさいのちいさき
やうなり葉をわまちやニ
するなり細末して用ル
甘るニてつかふかんぞうとあま
ちやといふあやまり也子ハなす
くのあまちややまちや山木ハ少金
頭翁といふ花のへ葉ちろく
夏ハ赤く秋の花むらさきの
やうにかくなりて八重ニくれて
えりし但シ葉ニ花四季
ともニ咲ト咲ハあらず

**酴醾**（やまうつぎ） 通春中末
花黄ニ八重ニやうとひとへ
ありこでまりの花乃

---

**梶**（かぢ） 木
葉ハおゝきのはぢの葉乃ごとくさ
古俗七月七夕ニ此葉ニ詩
歌ヲ書テ二星ニ献じてあり

**あかまつし** 木
葉ハうすくにて葉のやうにて
秋ニ南天のごとく実
赤き実ならひて付く

**百日紅**（ひやくじつこう） 木夏末ヨリ秋末まで
花色くれなゐむらさき白
やうこともいふさるすべり
久花ハ年

**槐**（ゑんじゆ） 通木夏末
葉ハ楽の葉乃ごとく
白キ花咲く

**ぐみ** 木
葉ハ梅の木乃ごとく木末ニ
やうじにつけるなり

---

やうにちぢれてしきて食スル数茎ニ
ときまのあるのは和漢朗詠ニ
酴醾著雨天有意数茎誤綻
暮春風ニとこかやの中え
の山吹ひとへにまらりのこゝろん
又のとこかやハあり此詩ハ今
ふ酴醾とこたへたり三躰詩
ニハ偶房逢著数茎花
吟行日已斜十二街中春雪遍
馬蹄今去入誰家註ニ日公
任朗詠ニ載数茎是已誤リト
アリ本草綱目ニ十二月開花
青白ニ茎ハ一二寸ヨリ花ハ
料理ニ用ルもさのなり立

木瓜（初中） 木ハくハいだうのごとく花色あかうすいろの二種有 花ニハ冬ノ莟どめニもちゆりて よしとぞ蘇鐵ハ花ニ上下 活ふよし

○冬木之分

凡テ四季ニ葉あるものハ越て冬木なるべし然ニ何ぞきはじとかニ説スや若テ椿はじニかぎらず四季ニ葉ふる木ニハ落冬木なり然共花ハ若ても見ろくへなの、冬の花を咲せるもんして去れども賞翫冬ニこれ有事葉まして葉を以て花とせるるひとりあり

○松のるひ（木）

黒松 雄松ともいふつねの松なり

赤松 雌松ともいふ葉やはらかにのびし 枝葉に用ても赤松ハ補よき由

---

ちやうせん松 右唐松のるひ葉ふともり ハしくて実おほくかどころニ実 とれると云

唐松 駿河富士ニ多くある故ニ ふじ松共云葉ハ栂などと 見ゆれどもまことに松ニて冬ハ落葉す 諸松ハ四季ニ葉をたもつ是のお 葉おちて見てすかして其葉志げり 秋ハ黄ニ色付て落ともいはれ ず冬落葉して春の芽のある 比たまふぬきかし

松のるひ終

よろし

五葉松 葉ほそく見ごろし 葉みじかくあつし

ひめこ松 葉形ち葉松と同じ 葉みぢかくやさし

霧嶋松 葉はまつよりもちいさく 枝ぶり各別のものなり

（立花ニ用）

翁松 葉ハ松同前葉ニ白く粉のかけたるごとく粉 ふく

○竹のるひ

順和名ニ竹非ズ草ニ非木ニ云云 然モ通用なり

からたけ　砥竹ともいふつゐの乃竹なりりくの輪細工ニ用ルなりひろくれハおけやいろいろにする

紫竹（しちく）　むらさきいろのやうニ見事なり

なりひら　と竹のごとくニて節ハめ竹乃ごとしめす竹の見分かたきゆへなり乎ことは

箱根竹（はこね）　ほそくなかく篠乃ごとし今多く籠細工ニ作ル竹

金竹　ふとさ竹ハ杖などにあり竹の色黄ニしてまハり三分かどのまゝとゞら篠のごとくにて一節づゝあき筮竹などにする竹也と云

苦竹（にがたけ）　苦竹ハ竹の事をいふの外そこさき竹と淡竹くれ竹ハ竹の苦竹ハ此竹のつよとゞ淡竹此竹と文字を云分地なり此竹ろまでに渡おつる事なり

淡竹（はちく）　紫竹のやうにて黄白し紫よくそりて立花につかふ

篠（のだけ）　ほそなかし節ひくゝしてすぐなり矢竹に用ル

鳳凰竹（ほうわう）　ほそき竹なり葉多くあつまりさがりてかさなる鳳凰の尾乃ごとくとて

志まかり竹　しまたけ乃ごとくなし

寒竹（くわんちく）　色くろくほそき竹なり冬中竹の子出るゆへ寒ちくと云又ハ漢竹ハ寒竹にあらず物也平ノ通盛ハ今百余宋朝へわたし漢竹とよぶよし笛ニせらるゝよりかくそ今も寺ニある竹ハ此寺ニてハなし其をの中筍生ルゆへ又孟宗竹共云

棕櫚竹（しゆろちく）　ほそき竹也ふとさハ杖などあり棕櫚のごとくなる葉付て葉むきに白き乃ごとくあれたて下から志ろの中より竹の子出る此ろしひニ三月めぐらんとん竹といふハ葉みぢかくほそくまりさら細し

かてい竹　ふとき竹なり葉の長まりてはなれ竹ごとく

○笹（さゝ）のるひ

焼葉　くまさゝハすゑ葉の色白かくしゆへやき葉とも云

小くまさゝ　くまさゝの葉のちいさきのこと

越後笹（ゑんごさゝ）　くまさゝよりおほきて各別也

児笹（ちごさゝ）　葉ちいさくさゝこぎのやうな葉ニ白すぢありて錦など見ゆる

箱根笹　葉ほそくちいさき笹也

竹笹終

檜柏（いぶき）木　多ク信濃より出ル也　俗ニ
かまくらいぶきといふ是を上とス
葉あつくみじかく二いろ有　岩檜葉のごとし
立花ニ用ひてよし　木のそだち
おそきゆへこくさになす

柏槙（びやくしん）　いぶきのるいにて葉若
別に葉あかみをもつて葉

すい柏槙（びやくしん）　葉ほそくはりあり木
横へはびこりのびる

野笹（のざさ）　はちいさし

根笹（ねざさ）　やぶなどに在庭

黒檜柏（くろいぶき）　葉ほそくこまかくとがりもく
のよし

丸檜柏（いぶき）　葉ハいぶきニ同じ接木
にせう木ハ大きにゆへ立花ニ宜木

木柏槙（きびやくしん）　是ハもりのびて大木
よし

唐柏槙（からびやくしん）　葉ほそくやはらかにしなやか
にしてたかくのびる　竹にちいさし
とく黄に植へよし

---

ひむろ　ひやくしんのごとくにて名別
葉あり

檜（ひのき）　つねのひの木ハ葉ふとくして山
ひの木ハ葉ほそくとがりて名かはる
ひの木トモ云也

唐ひば（からひば）　葉面ニまだらくわしく有て
葉わかみもみどりあり
表ニて是を裏面又ハこのて
かしはといふて賣買スル此味
すべし

びやくだん　白檀ハひやくのるひにて唐
木ハ香氣なし和ハなき也

さし　ぬひひはらといふ
木ものへのびる也

翌檜（あすなろ）　ひの木にてひのきに似て
まへくるす桧かふり
多くおなじくと合せたる
じくにまり四方面に出る
なまこのてがしはといふたぐひ
は枝葉ありて人ともちる也
す

ちやぼひば　丙面のるいに木乃
ひばはちいさき川ハ丸くみ
あし程よし丙面よりよわら

あすならふ　ひやくだんのごとく
ならいはへる

そくさく　びやくさんのごとし
高野槙（かうやまき）からやまきハ葉ふとくながく
長ク付り。いぬまきさら
かん金世といふ木よく似たり柚そて
高野の樹木なりからやまきとも云
て賞ルごさんにころべし
いぬ槙（まき）からやまきのごとし実（み）
人喰味あるべし
樅（もみ）りふよ葉榧のごとしとも云
花ぐのこと　うるしのごとく見て二ヶ所
句り葉あり

からた木　ひの木のごとく見て
葉あらくこぢかなり
羅漢樹（らかんじゆ）葉かうやまきのごとく
の内葉ふのうちにちいさき実あり秋
究佛乃形ちく故にらかん金世と云
虎の尾（とらのを）葉このてかしわのごとく葉こまかなり
ひめこ樅（もみ）葉ごく細し
もみのごとくにて
うら白　葉ハ乃たりはれぐ〳〵
見て葉ぞうらしろし

伽羅木（きやらぼく）　つがのごとくにて葉ハ
葉ふかくなりてかうやまきのごとく
葉ちらして花て一位の木
のやうなる木の葉れ多し
○あかり○かやまつ○わらぎ
○さゞ○一位の木を使ハバ雅とて
ら。かくて伽羅木といふなり
葉ハかの名前にてさくの名
あり○めにすこしかくハ葉こまか
にてうなしへ八重○上にあ
かくハ葉わりし○ひらく葉八重に
葉かりとのごとし　葉ハ八重に
めにあしかくハ上に
栢（かや）葉ハ形りとのごとし　言をと
　よとうまて

とねりや　葉ハかやのごとし　実（み）と
　るしこ有
檜精（ひのき）葉黒くあかりて冬も
　よし実ハ秋熟し
大阪のらつのかのらよりも葉ハ
　こし
香のき（?）ちら　葉大阪のらにぬぐく
　その頃より細かなり
いさなのちつのかのらのごとく
　見て葉かさ白くさら
　さしび分あり
柎（ふう?）葉ハ大阪のらにかて分あり
そよぎ　葉ハ花にとてをさ実
　とひらそべ

ガラス使用

榲（ひさん）うらの木の葉のやうにちいさき（りのし）

ひさき 葉ハさゞんくわのごとく（黒キ実なる）

榠（ゑん）葉かうじに似て赤なる

樒（しきみ）さつまちやの葉に似て夜実なりなりしちやの木乃らいありはえて葉のよきちやちばのめかれものしめ葉つくりけものなし

楠（うのさき）はうばいの葉よりほそく黒り わりなき実あり

---

榲（ろうひさん）葉ハひさきんに似て白実なる

うしみ 葉ハりうのやうに実白りしあかりしの 二種あり

さゝまき 葉まき楊大きし実 大き也

肉桂（にくけい）ちばの葉にかうり葉すも 本ハ香味なる

桂心（けいしん）かうりんしハ葉まち花別 かうり香味ハ紅なる

さゝく うちの木乃ごとし（花ハ白き実なる）

---

濱なつく うちのごとし

たらえう 葉ゆづりはのやうにて 花別なし

木犀（もくせい）葉ハうちの葉のごとくかたき 秋葉のもとにちいさき 花ありて白らんじやのごとし むいろ白黄

日つげ 葉まさ白く大きし

白丁花（はくてうげ）本通夜初中 花白くちいさし葉 つげの如くかく白丁 花ハ七八月さきそめる

---

ゆづりは 正月かざりにつかふ（ゆづり葉ハさかきのごとく おとまづ二葉ありて秋黒き実 とゆもちゆ）

柘（つげ）大つげハ葉ハ大きくてまろし こつげハちいさし

ひめつげ 葉ちいさくして赤も ちいさし（げたいふ）

やどめ 出げのよすく葉なき 黒し

梔子（くちなし）花白大りん風車のごとし（八月ちる）

本通夜中末

唐梔子（たうくちなし）（春通夏中末）葉ちいさし花白く中つぼみ生ず
実つぼきを丸し 葉ハかうらのごとくまそ
柊木（ひいらぎ）めひいらぎハ葉ちゞみたる有 おひいらぎハ葉すなをなる
桐（きり）（とうどう）白桐しらつハ葉かうちにして 花ハ二種とも 名葉多く別
唐の葉ハ くろくとりて まる
葉の花の紫くちなる
唐梧桐（たうごとう）通 葉ハ葉かんとして 小さし葉多く
ちく名別してちく粉をとる葉のもと

まさき 葉ハかうらの木のごとし
うら白 葉ハうら白く葉の如く秋紫に実をむすぶ 実のくらいぶちんの様よ 山実をちがりこらふ名有
梶（かぢ）又たんぼゝハ葉かぢのごとし小なる也 ハ葉ハこまかに小ぶりくわし
夏木名を唐葉
梧桐（あをきり）通 つのゝのきりのこときて中よ
花咲て丸き実なる
ひさかき 葉ハきらの小さき葉也 山木葉かうりて 五ツ二つ合て花さく 白くらの花の実あり

沈丁花（ぢんてうげ）木春 初中 らすぐれの名程ぐ一ツよ
いたしき白うちの葉ちもりくく
のごとくかてうり 又花ハ白き
石南花（しやくなんげ）木夏 初 葉ハかうらのごとく 花ハ桜ある二ツをあり
まりさく
こせう 木 葉ハちんてうげのるひ かて花白し わりさ実を
味ハせうくさいへ せうの名有 これかをかす通の食は
さ花 木 葉ハさんちんげのごとく 花ハうすいろ

馬酔木（あせみ）木春末 葉ハちいさきのちいさき やうあて花ハちい白く
藤の花のなかてちらのごとく二 ふりてなるる葉をもし馬のはめば
食えしハ酔ふもしず死ぬるへし 馬
酔木といふ 龍安寺の
前のほとり 山内の横池のなれ
鉢植しあせみの花やさくらん

182
20.
158

## ○実秋色付て見る品るい（このみあきいろつき）

唐たちばな（たう） 通 葉かうじのごとく実あかし 世の木の長ちやうずる実付て出し 二年三年乃実おちずして 所々まわるゆへに代たちばなといふ

唐ふそば 通 葉ハ茶の葉のごとくあかき実 まゝ深山樒の如し

紅丁子（ゑんちやうじ） 小通 葉ハまへのごとくうす白き花 あかき実又冬ひしとさく つらなりてうつる

仙蓼（せんれう） 草 葉ハ茶の葉のごとくに して あつき実ハ一所に こまかりて付く かつふる

深山樒（みやましきみ） 木通 葉ハりんかうのごとく あかき実房付く

梅擬（いぬうめもどき） 木 小つぶなる赤き実葉に たとへバ梅もどきにさそひ 花ハ十月に実付梅擬と いふそもこの実わうく実乃 木ハ大株也しらぬ実

花丁子（はなちやうじ） 通木 葉ハまへのごとくうす白き花ハ 赤き実赤きひしとなれり さきてうつる

風ぶかんじ 草 正月かざりに用ひなり花 実あかし

[illegible]（きうじくし） 葉ハも見るもりて 実あかし ひしと付く

錦木（にしきゞ） 木 木ハ四角あぐいる赤き 実梅もどきのごとし 葉ハいかうしろくなれ葉かすゝ

うす白きハ白梅擬といふ

南天（なんてん） 通 本草綱目ニ曰 其ノ種是木ニメ似タリ草ニ故ニ南燭草木ト号ス 又云ふるいひハ南天燭といひ又ハ葉 あつ王の名いふ名をさゝ葉ゆへ そのきしきあれたり今ハ何の家にも 多くありてよく天竺のくさ木大概 書院のかざりよく植て能久 目もきもかれバそうしくいふ 世にも おしいつら年よくして南天といひ されバ木の葉をつゝてらいさゝきよ よく実なりてひろくゝよし

# 増補地錦抄　六

巻之六

草花春之部　初丁
同　夏之部　廿二丁
百合草　廿二丁メ
水草　廿三丁

182
20
158

東京圖書館

~~和書門　一八二類　三〇函　六 五架　二三九號　二〇冊~~

帝國圖書館藏

# 増補地錦抄巻之六

## 瞿麦（なでしこ）るい

紅（べに）なでしこ　ひとへ八重（やへ）いろ切込有

桃（もゝ）いろなでしこ　もいろひとへ切込之花形よし

大和（やまと）なでしこ　地なでしこの葉のくろやかさきひとへ切込ふかくこのむしきさき見ごとよ花形よし

小清どえ　花中よ白く（さきに花）むしの海よりへうすく紅しいろのごとく切込ふかく見ごと

鷺森（さぎのもり）　さぎのりかせんように切込ふかくひとく

大鷺（だいさぎ）　花形大りんにて葉せも高くのびて切込ふし六月末頃よひらく

ガラス使用

**かさゝぎ**　白中つまん切込ふかく茶筅ざくい

**毛やうぐく**　緋かのこしこのとくられたるい切込ふかくして

猩々うしらのとくわよしひろん

**団栗**（どんぐり）　むらさき切込ふかく茶筅ゆさけあり

**見やこ花**　紅かうしこ浅ふちやさき

ひさへ茶むらさき也

**嵐**（あらし）　白ニ紅すじさゝさわらくしぼりほそく切込あり

**唐子**（からこ）　花ひとへ浅ぎ小つまん花形よくあつらしし

**かく霞**　白ひとへ花形ほ浅ぎくさやおて切込ふかく花のほやうし

**浅むらさき**　てうせんなでしこのごとくいろりと紫

---

石竹

**太神樂**（だいかぐら）　ひとへ極大りん白紅よりむらさきのごしきりのと

いろくあるハさき

石竹

**らせうもん**　これも白茶よくひとへ大りん

**花菖蒲**（はなせうぶ）**るい**

**紅鶴石**（なんありし）　地花なん紫あつさりと

花弁かか白きゆらすそ紫やさき

石竹

**太右衛系**（だいく）　花形大輪紫のごとくみてさしさこ浅

これおりて系也といふせきちくのごとく浅紫おつまんあり

**清瀧**　花のまえよりうすりと紅花中白し

浅ふちやさき

げんじ
源氏　地うす紅あい紫の小紋入花のなりよし

あやむら　花形など大はげんじに似てゑらく大りん

あいらう　花形よし色は絵工のあいらうまそ染たるく

こんぜう　花形のし色はこんぜうの色あさきすく

かさみ　面よりうらをたてむすびでく　地紅梅色に紫の絵みとあさきの

六やう　地紅に白しぼきさきるり色花のかう立はなおあかまん

あさぎ
浅黄　なかれあさぎ花形よし

うすかう　地うすいろ紅に小花のごとく

---

ちんぜと　二様あり　地うす梅色りんと小りん花中の色と

梅つゝじ　梅つゝじ色にてりんと梅色似合花形よし

こい
濃梅つゝじ　こくうすぜをのやうなり　梅つゝじ色より

紫八重　せんやうかおく花　むらさき色

白せんやう　白く梅色せんやう花形さざき

しらさぎ
白鷺　地色白し

浅せうぶ　花は紫小りん紫に白き筋ありて花はうすあり底紅より紫の色なりかすり

うすぜを　うす紫染にうすし

**小さがり**　地花うすむらさき紅のさしまじりあり小りん

**今てりふ**　地花うすむらさきあかいらうの紋　うそむらさき乃　ゑし浅かるの花紅　花形のくみさん

**摺りの**　地花うすく浅黄　ひしさうれ紅紀　くんすりまきたちさん

**千鳥**（ちどり）　むらさき浅し　こむらさきの　すぢあり

**平り夜**　うす紫に　紫の筋あり

**吉の浦**　地花うす紫の　こくまた紫の　みずりとひ入　りんすりみあり

**わきのて**（わきの目のごとく）　地花うすむらさきか　かいさきよのごとく　おそくに咲きて

**ゆふぜん**　地花かうこいろ　さらしいろ　白すぢ

**葵の紋**（あふひもん）　地花うす紫　やうやて花びら　あふひの紋　よくに大く咲きもじ　あふひの紋のごとくあり

**擬宝帽子**（ぎぼうばうし）　うすむらさき　きぼうしいろ　花ひらく大り

ゆやさりとさかう

**縁の色**（ゆかり）　紫の色浅黄　ふかく極大りん　ますすみ紫云

**是迄花菖蒲るひ終**

**錦裏羽**（きぬのうらえ）　うすくさきの　ねまちかたに　つまん浅かて　ゐこくにありけり

**絵簾**（おすだれ）　うすむらさきれ　あさきすぢら　すうれ目の如ク　大んすみあり

**きりさ迄**　かきいろよ　こいむらさき　のさうしさ

あき花殺ゆかりとさぶう

百合茶るい

かこうか　冬中末
花形葉大ぶりのこゆりのそとのごとし
花の内うす赤き色

白かのこ　冬中末
かのこゆりのごとく白地ニ赤き大に白

高遠（たかとを）　春末
花白ニ赤のまそけ
さらさ花形よし

○是迄ゆりのるひ

白小倉（しろおぐら）
白ニさらさ入大りん
おもかげあり
かゝ桜いろ

---

りこぢ　春末
花あかく花中
かしもうすく
花形よし
そとうらけそひしく

ちゞれ　春末
花うす紫
まきりうそ
に色あり
葉かぞ長く葉の色
白くすじあり

大がんひ
あかがんひの
花極大りん

---

わざこるい　冬穂　冬初中

紅筆（べにふで）
花の色くれなゐ
のわざこなり

ふじ娘
花あかし
大りん

うすもと
うすむらさき

○是迄わざこるい類

藤花生（らうゑ　生う）
花も葉も大キも
大豆のごとく
冬紅うこん
あそまゐのごとく
むすぶ

---

あけぼの　冬穂　冬初中
うすさくら
ありあけん
うすうさの
やまきも見ゆる

ちゞれ
こいむらさきに
あらくだれ紫を

武蔵野（むさう　すゝき）　冬初
天南星の葉の
ごとく花も紅
かちがひあり

白かざ巻
花も葉ぶとも
かざまきのそく白

も絲葵（あふひ） 夏初 花むらさき 葉八大きく 丸ク切込有
葉すげぐさといもの葉ニ似たり

紅ひあふぎ 夏中 葉も花もひあふぎのごとく
花ねもられあのひ千年
めづらし

森の下 夏中 丈低ひあふぎの花そむらさき
めづらし

宮の葉 夏初 花形も葉も 天南星のごとく
花の中に巻き抱ゑ又似し

大白あふひ 白のあやめのごとく
つしのあや花ゆり
わそくえくさ
うし 大きく花あつく
葉ひろくひろし

立葵（たちあふひ） 花色々 紅紫
あふひのごとく
うすき出来のし
あやしく見事 初秋

白らが しらがさうの花 あらし

うすけい 紫らん草の うすむらさき

おゝらん 葉形海草の 見るのごとく也

あどらん 葉長く 根もとく 竹のかはま
花大きくそ葉りて葉 風らんのごとく

かしは葉 葉形かし のごとく

村千鳥 夏初 葉は風らんのごとく 花形は 鳥のとぶがごとし
むらさき色小紫あり

えびそひ くろくこまかり のごとく多し 枝そあつく
花枝つきそひくこまか
柄なのり

石浪 なまこし みどりまじり そそののごとく 葉くのびて
葉ハふちそうの葉すそ 茎のく 低く出る

## 水草るい

**天竺蓮**（てんぢくれん） どうまんの如にて花白色よ百葉なるあり色もうすし

**紅[illegible]**○ 花くれなゐ葉ハつたの如くうかりの形 又紀州だつのこれものハ葉あり きんられかすいとかり

**鶏皮芹**（[illegible]） あのこく葉白く細かく葉

**唐かきつばた**（とう） 葉ハかきつばたのごとく実ハ花のごとく 池又ハ[illegible] 水草なり

**浮菜水葵**（うきみづあふひ） 水あふひ花うぢむらさき 又り如也 葉ハつるの如 あいどうが ひろく花

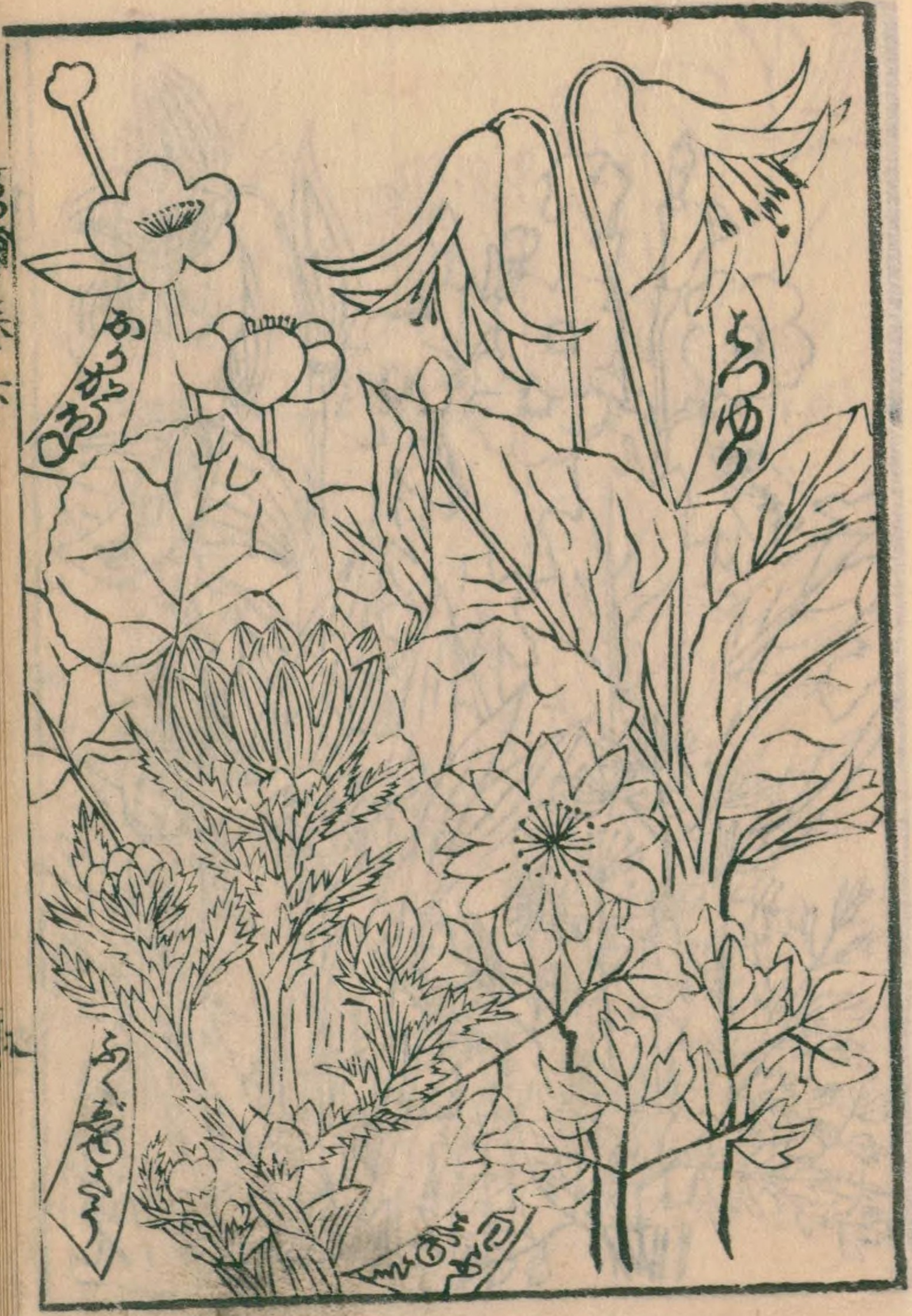
**八重かきつばた** 白方やうなる花あり [illegible] 色ハ来[illegible]のごとく[illegible]

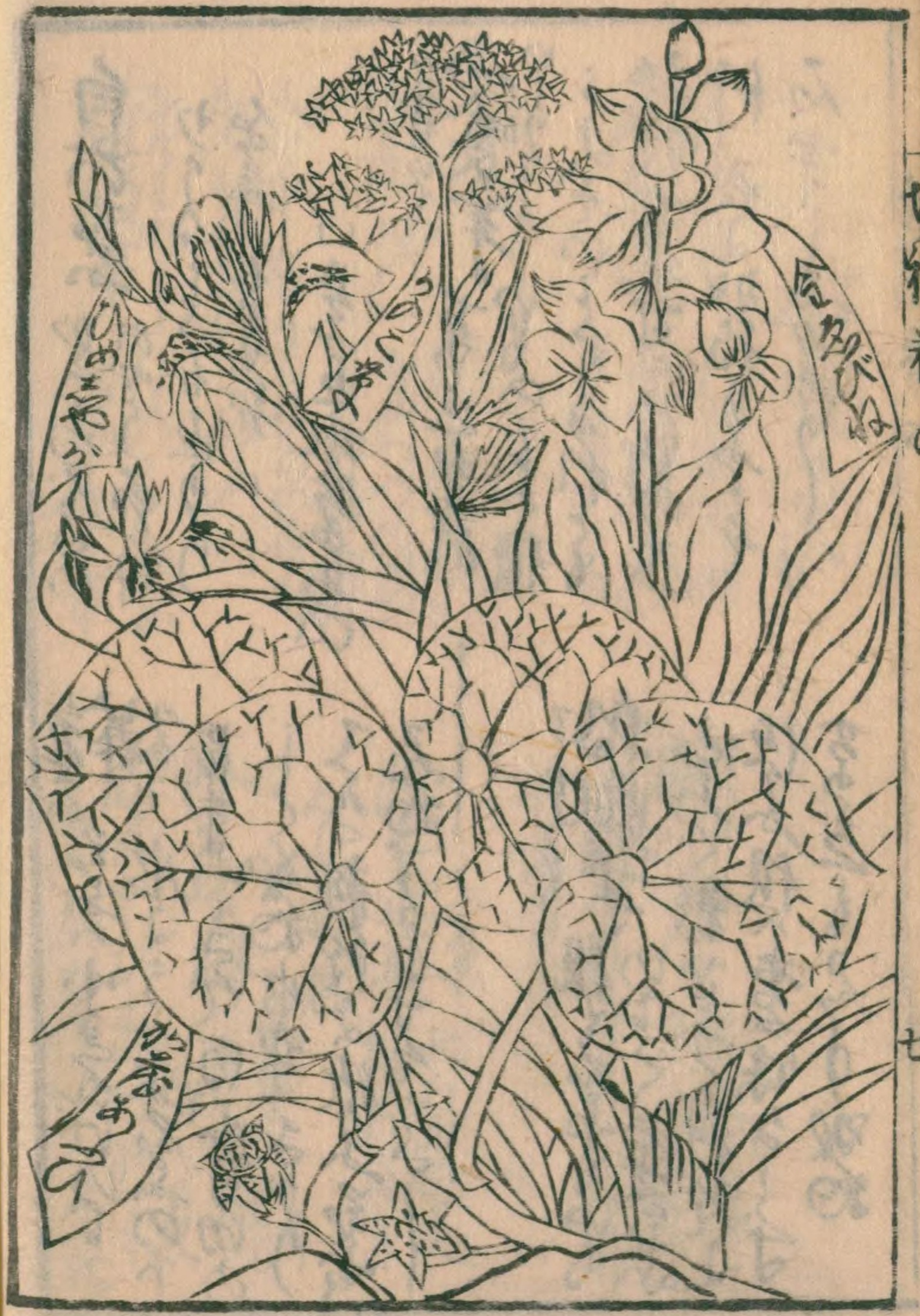
**白六葉** かうほねの 六月ニ花白し かうほねのごとく色かへあり 冬年あをき花 ○是ハ水草なり

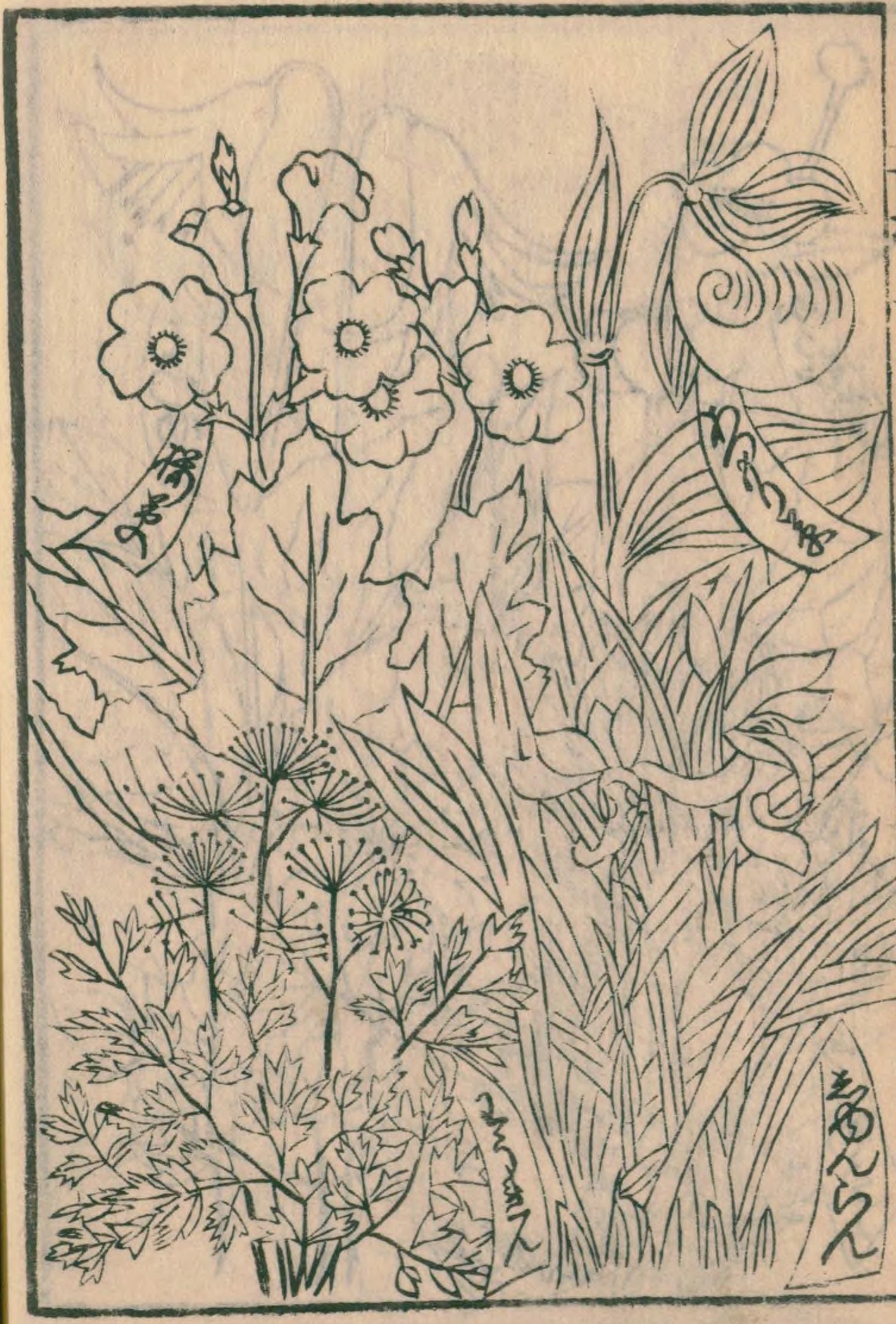
**食芋**（くわいも） 葉ハ[illegible] いものごとく根もいものごとくなれども 料理ニあへずるの大 仰ハいしは加ねあをそ 石菜しもりけし

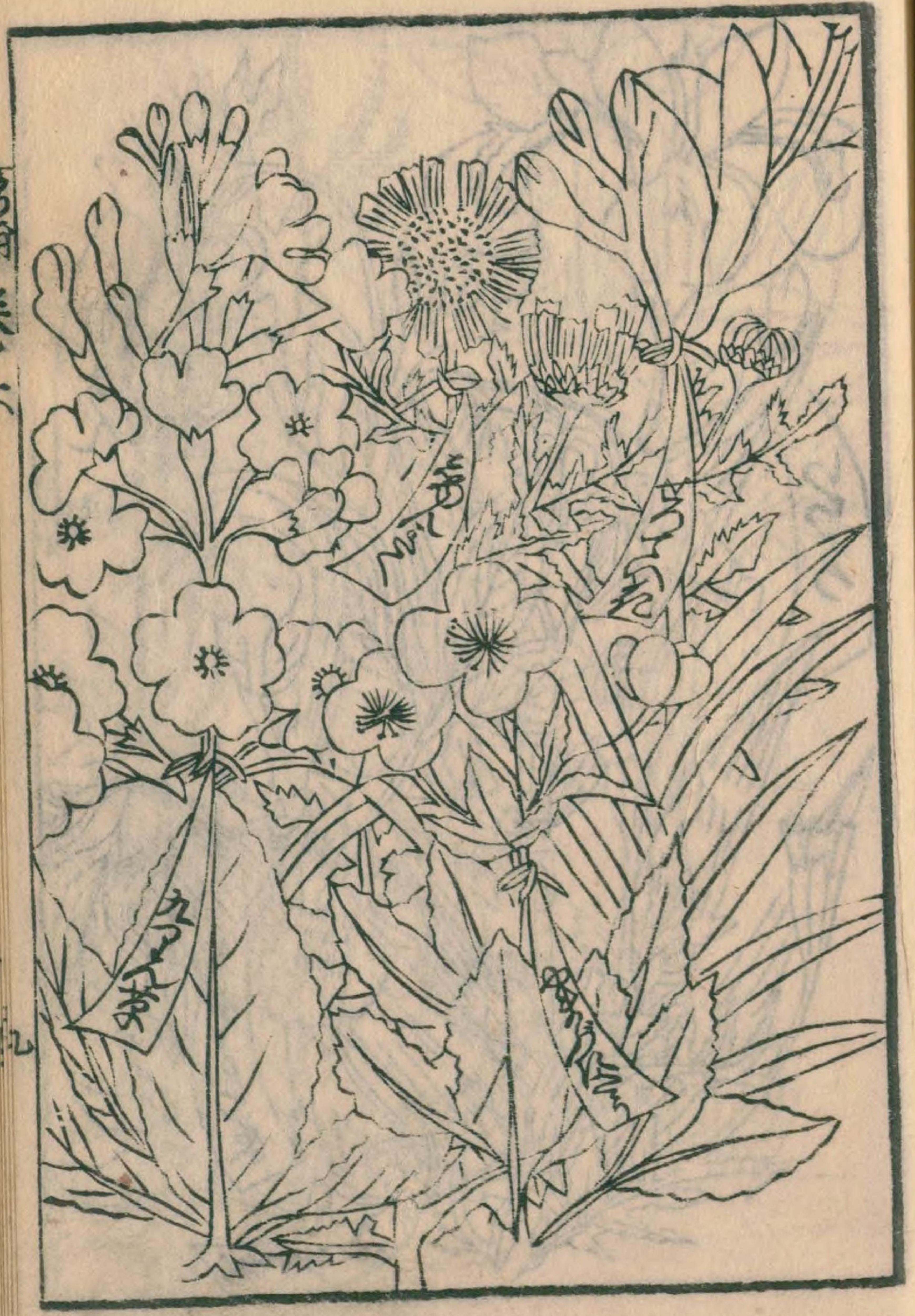
**蓴**（じゅんさい） 葉ハ小まんげのごとく 水ようふ[illegible]の下 葉よりつきて白き手切の しろく[illegible] 水中ニさがり てる料理ニ流ふ葉ハ [illegible]するまですそうし

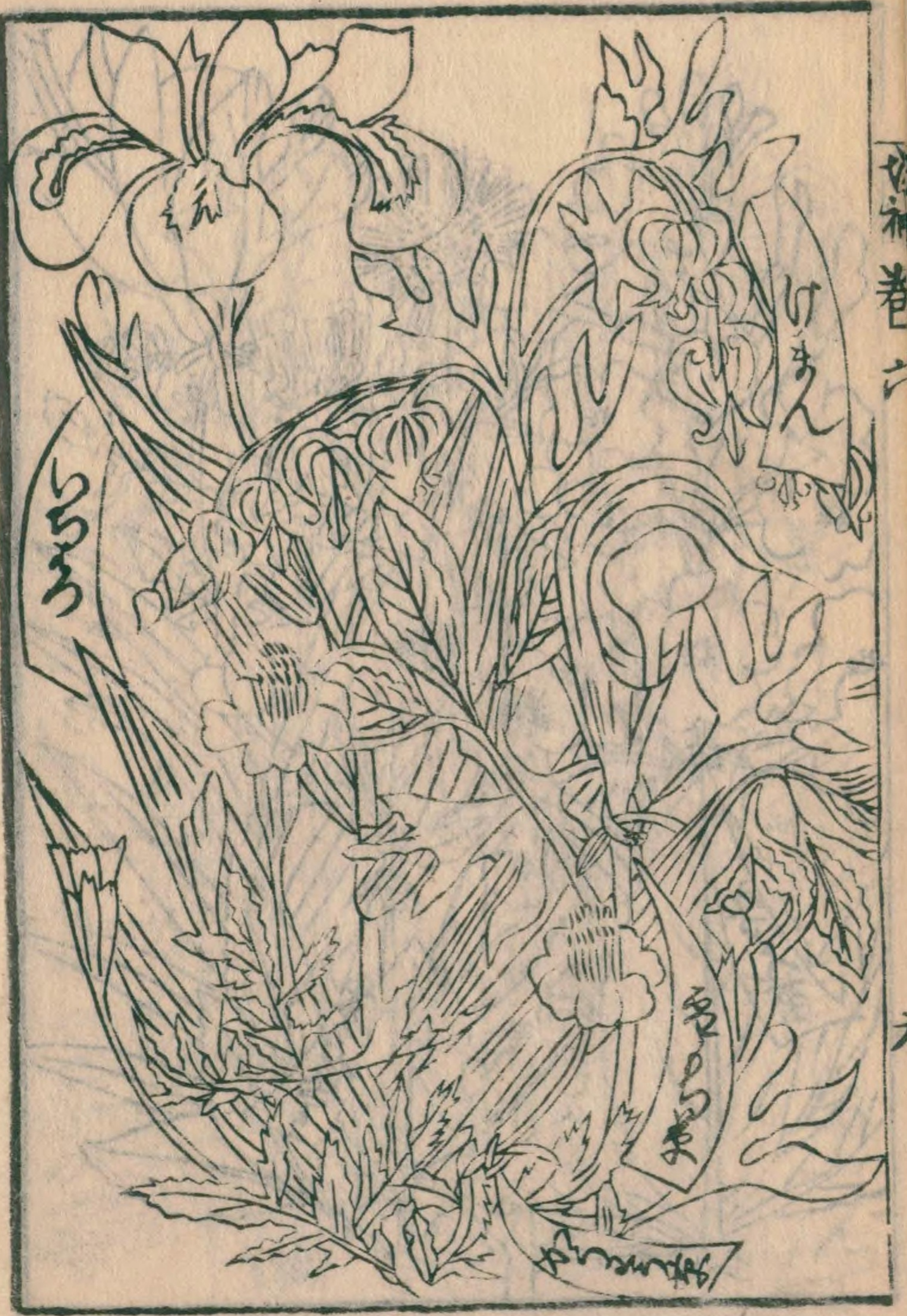
**朝鮮芋**（てうせんいも） 根も葉も芋も のごとく 葉ハ[illegible] よろく料をとふく料理よ 流ふ根ハ[illegible]味るへず 葉もあつりけり

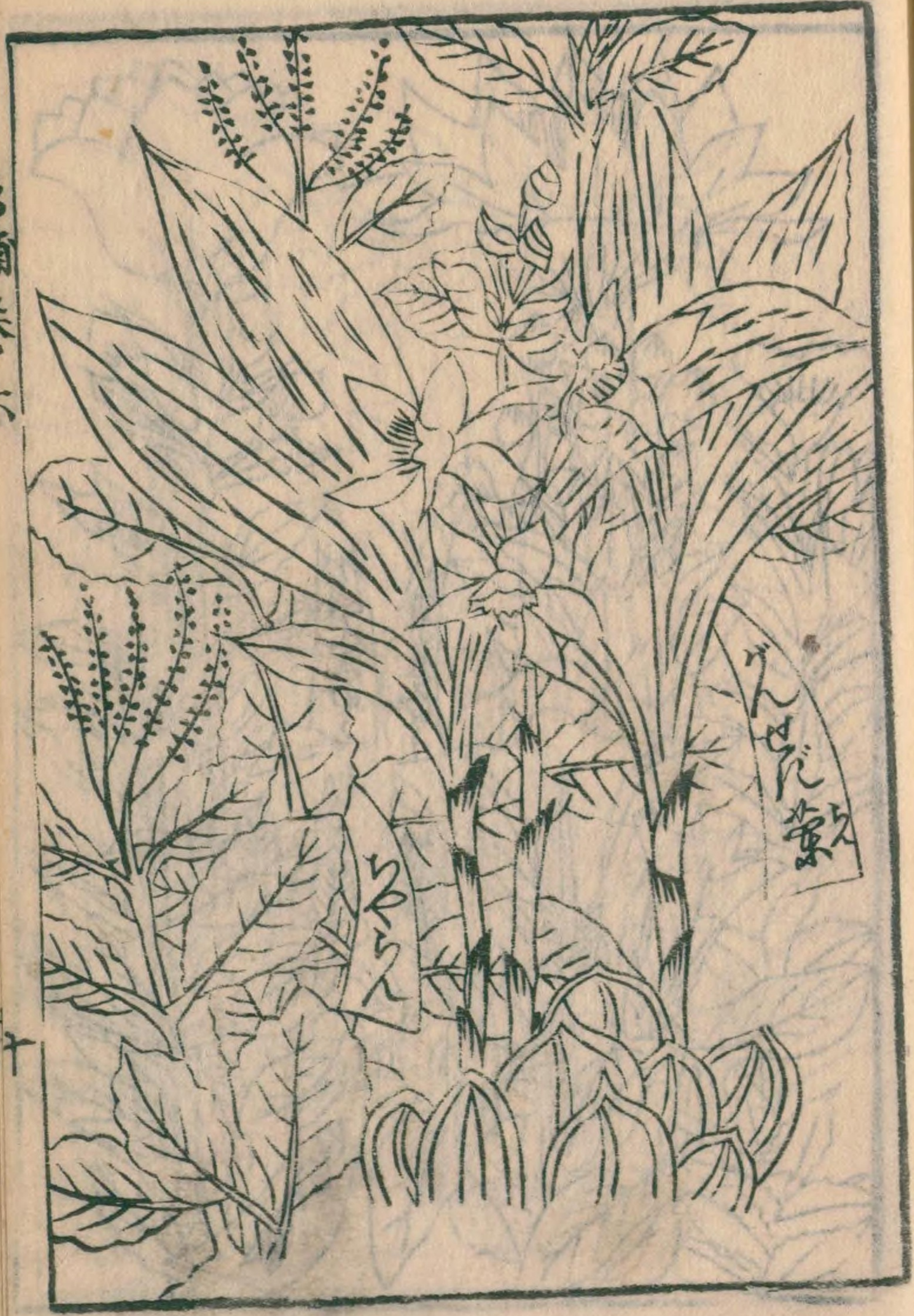

かうほね
ちゆり
[illegible]
こせんのう

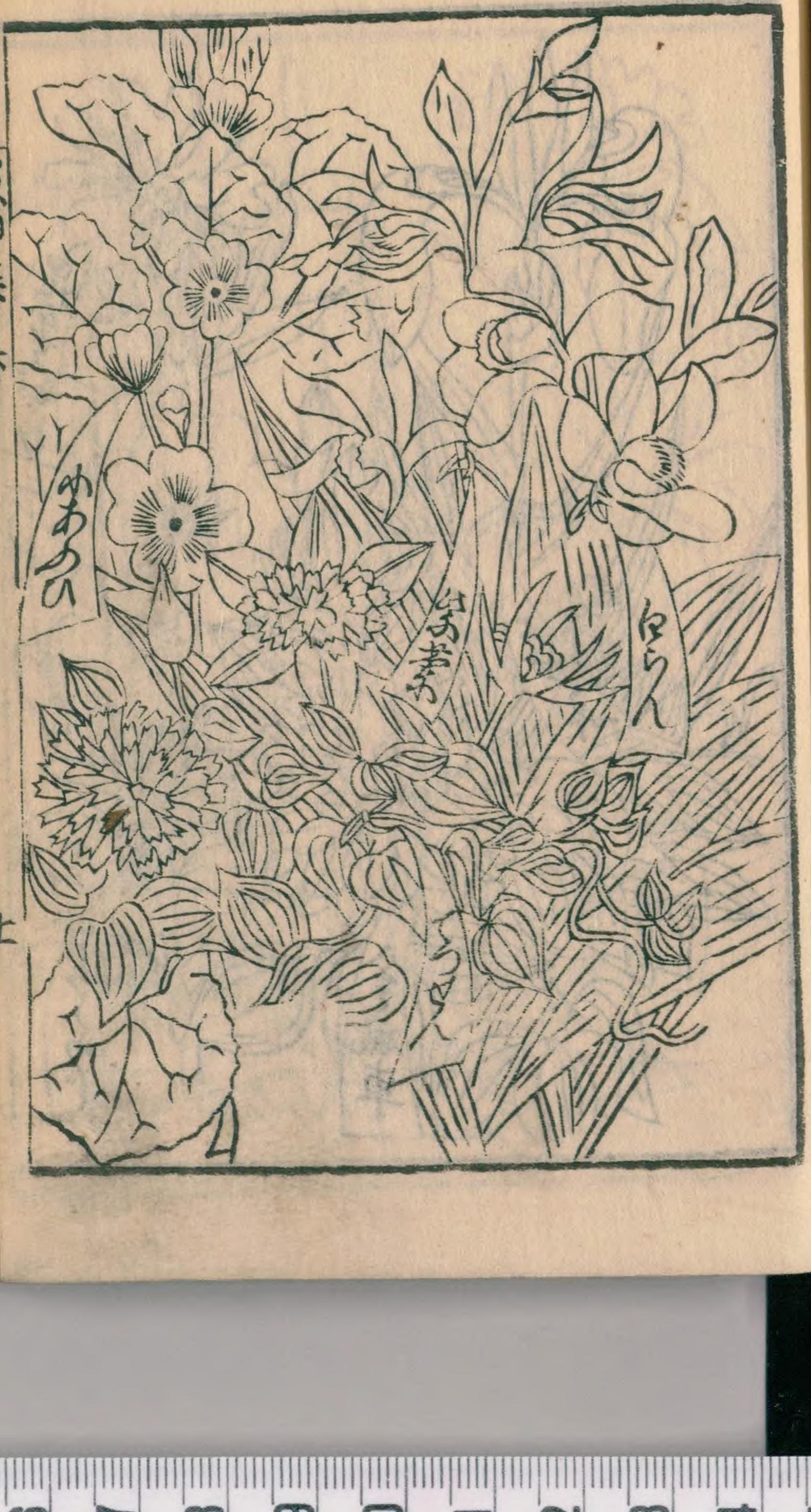

ひめあふぎ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

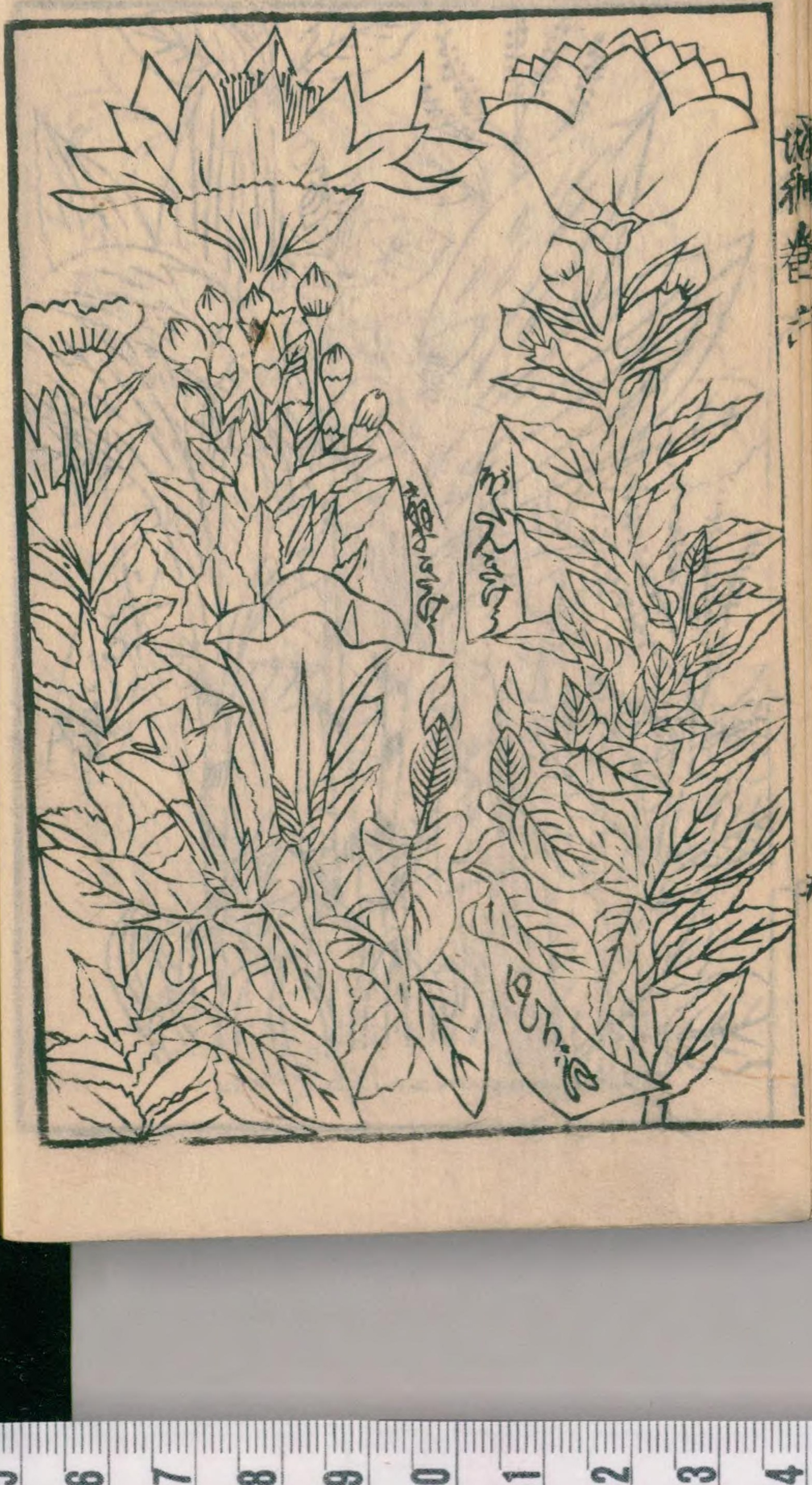

桜さう
あつもりさう
さゐんらん



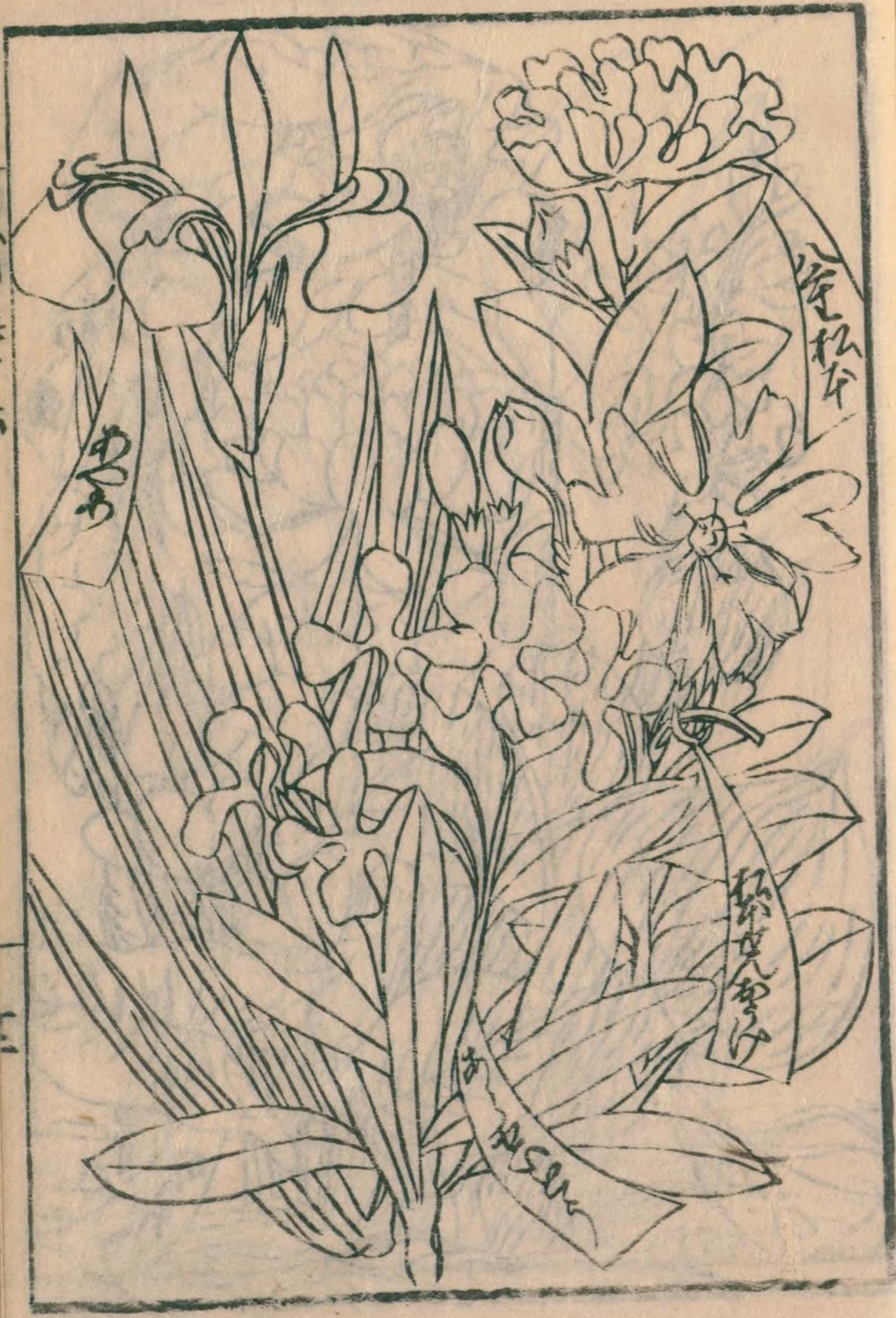

けまん
しちう
をのら葵
[illegible]

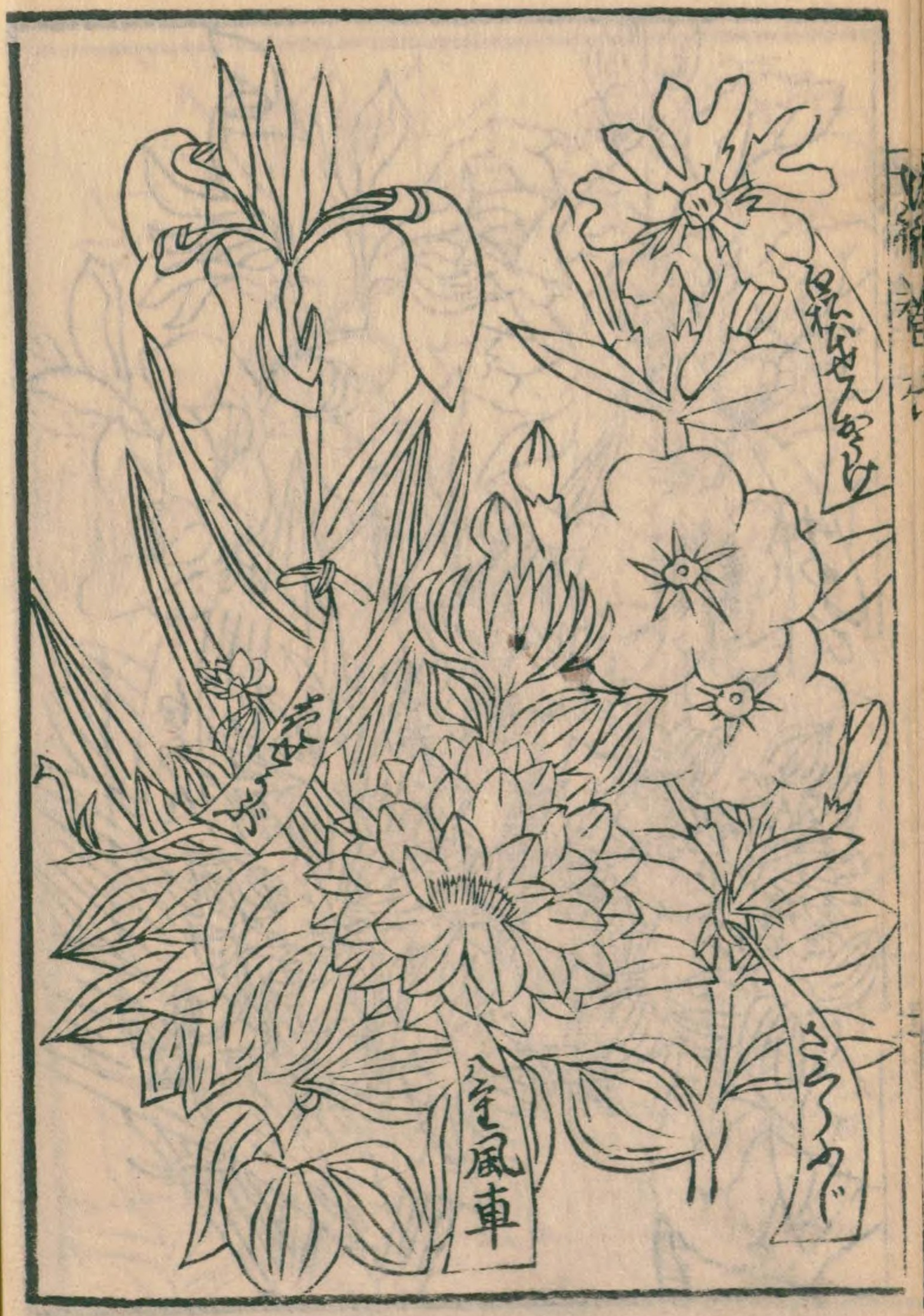

げんせん葵
ちやらん

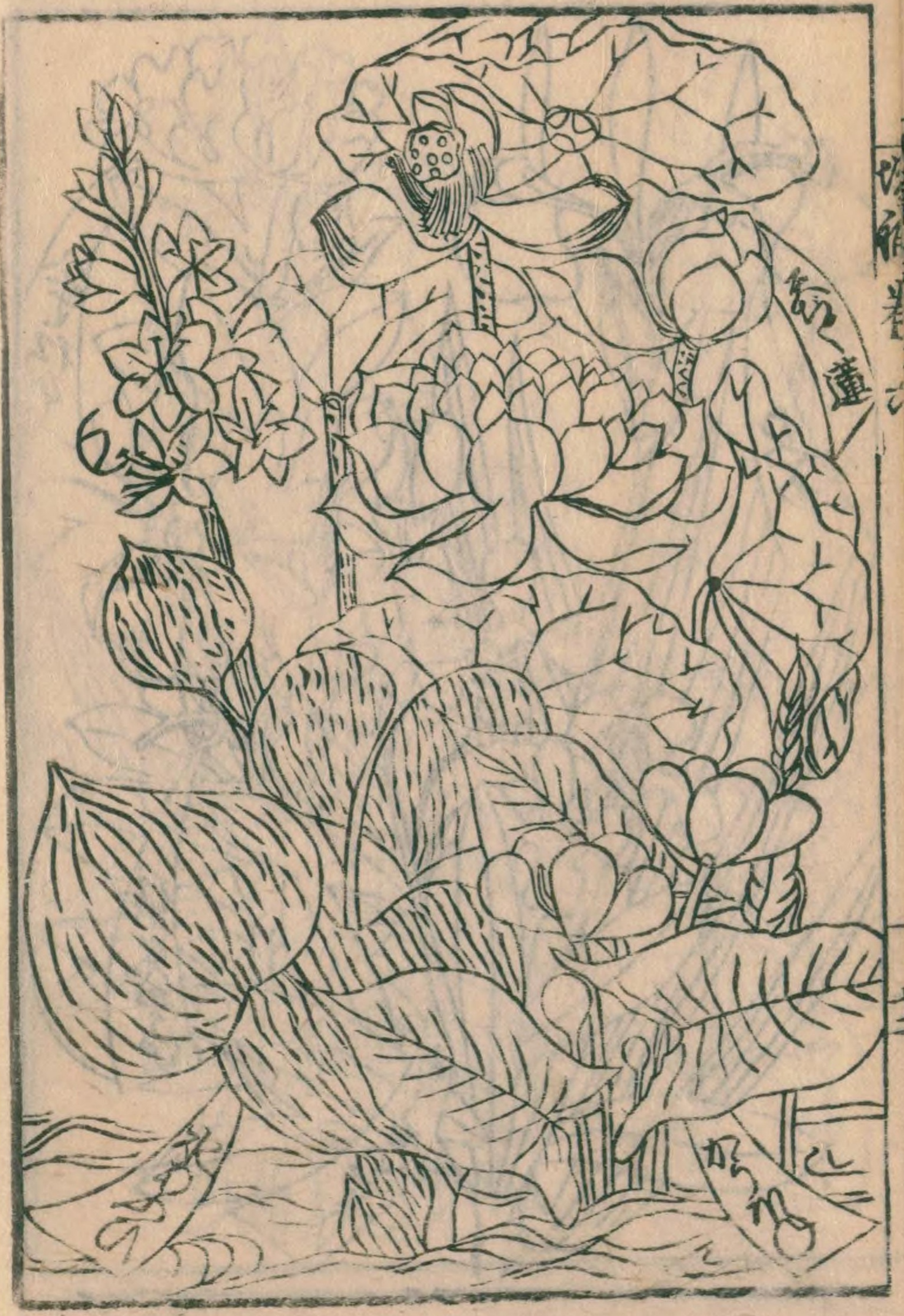


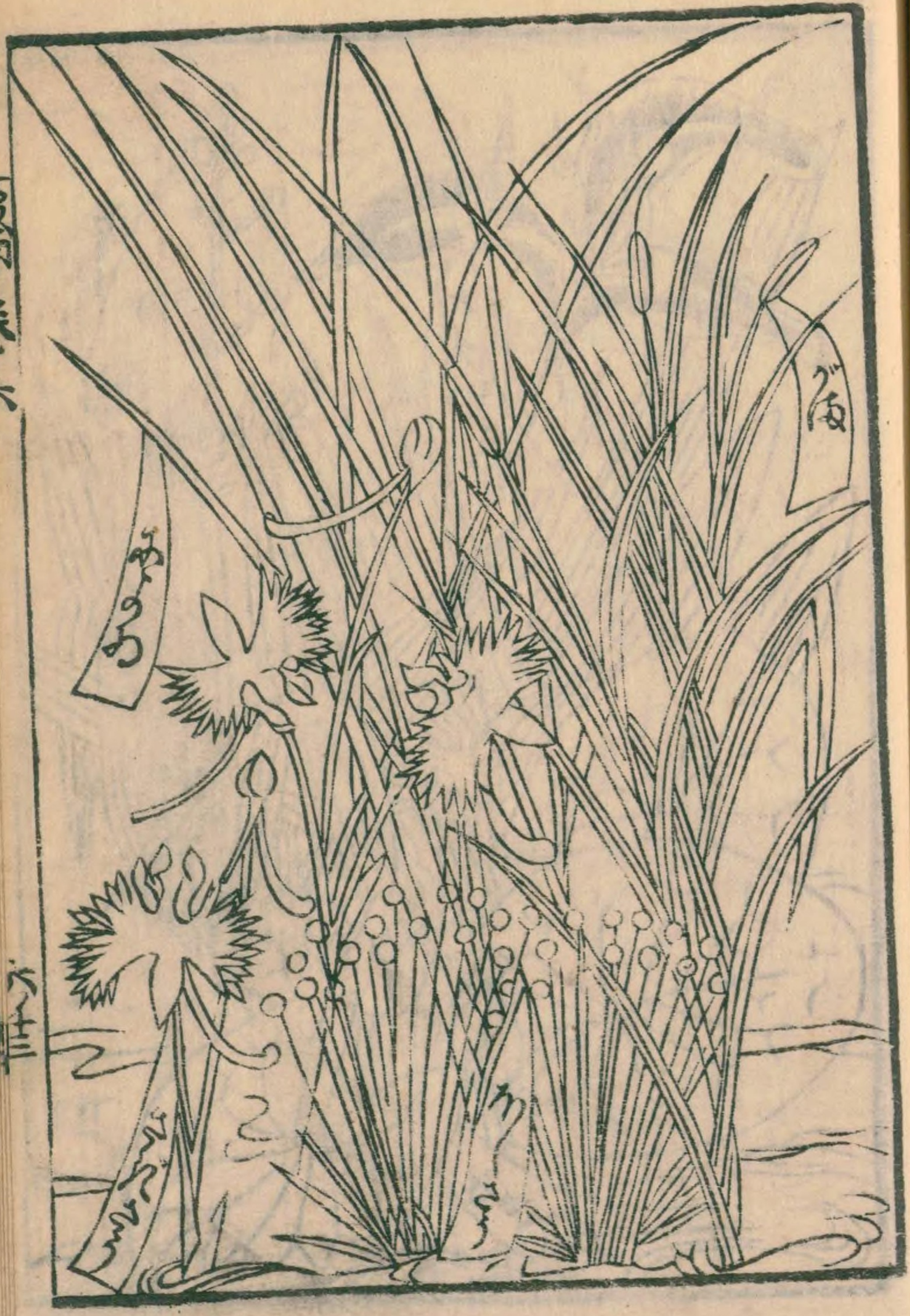


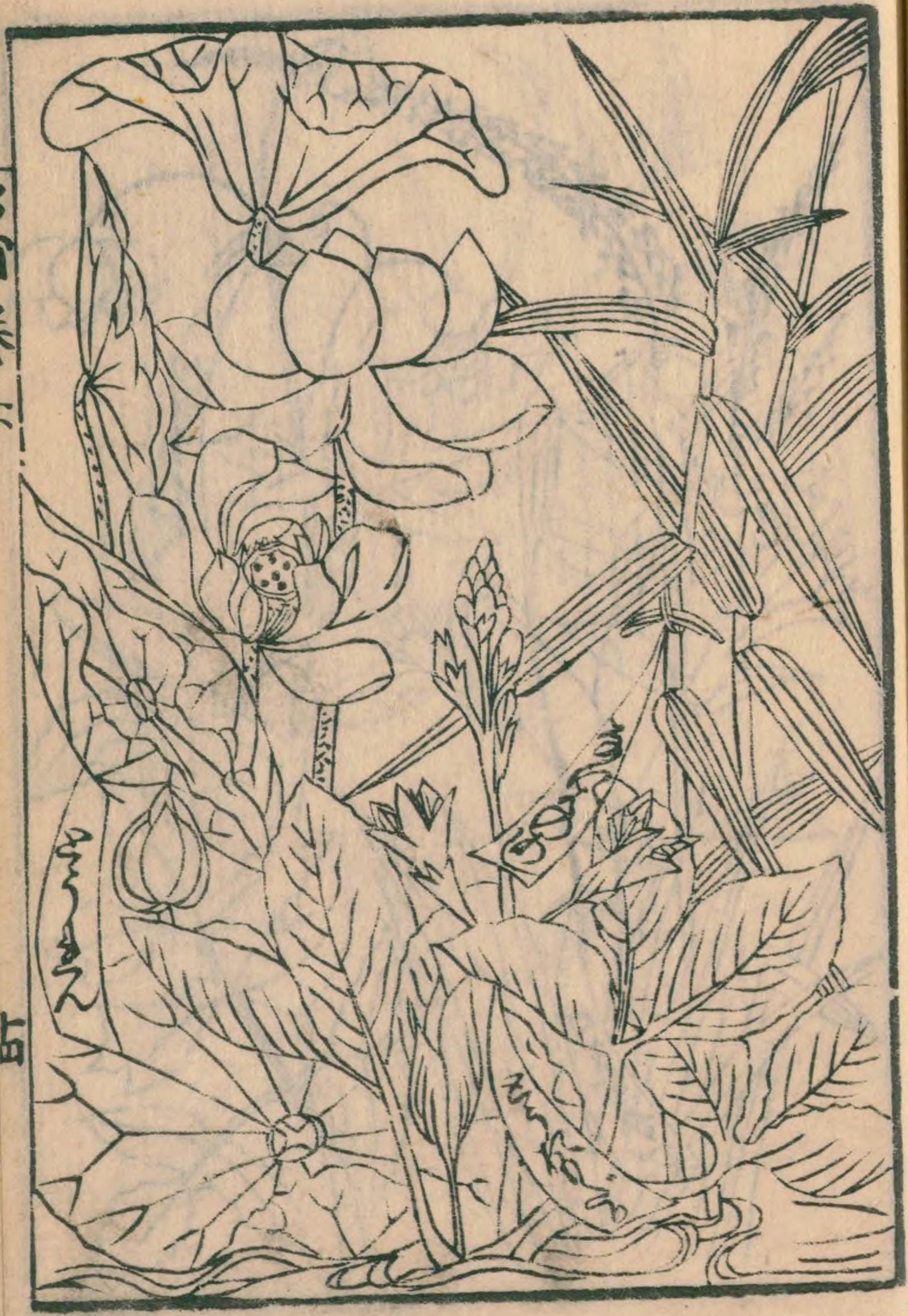
ガラス使用

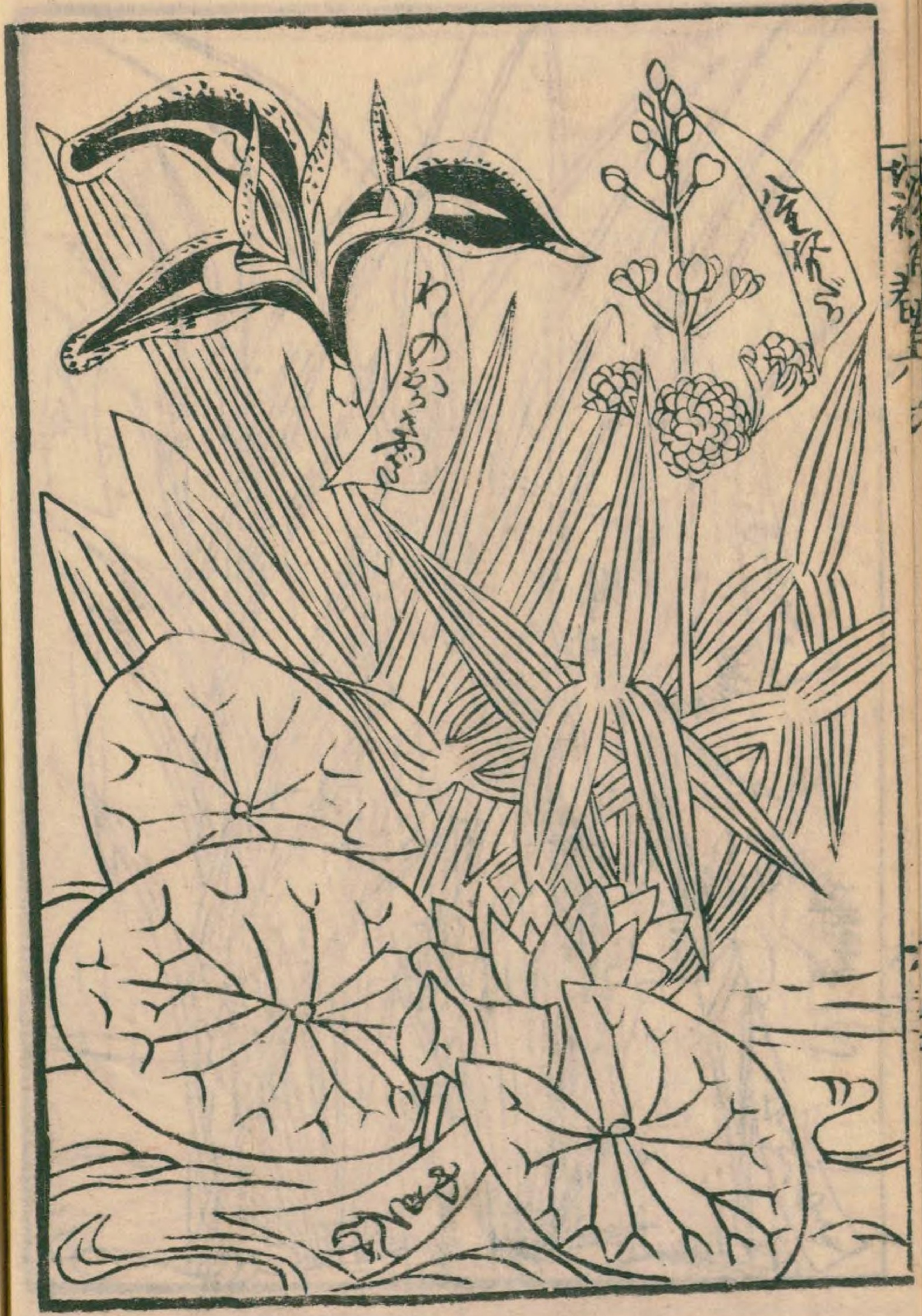

八重松本
あやめ
松本せんをうけ
おだまき

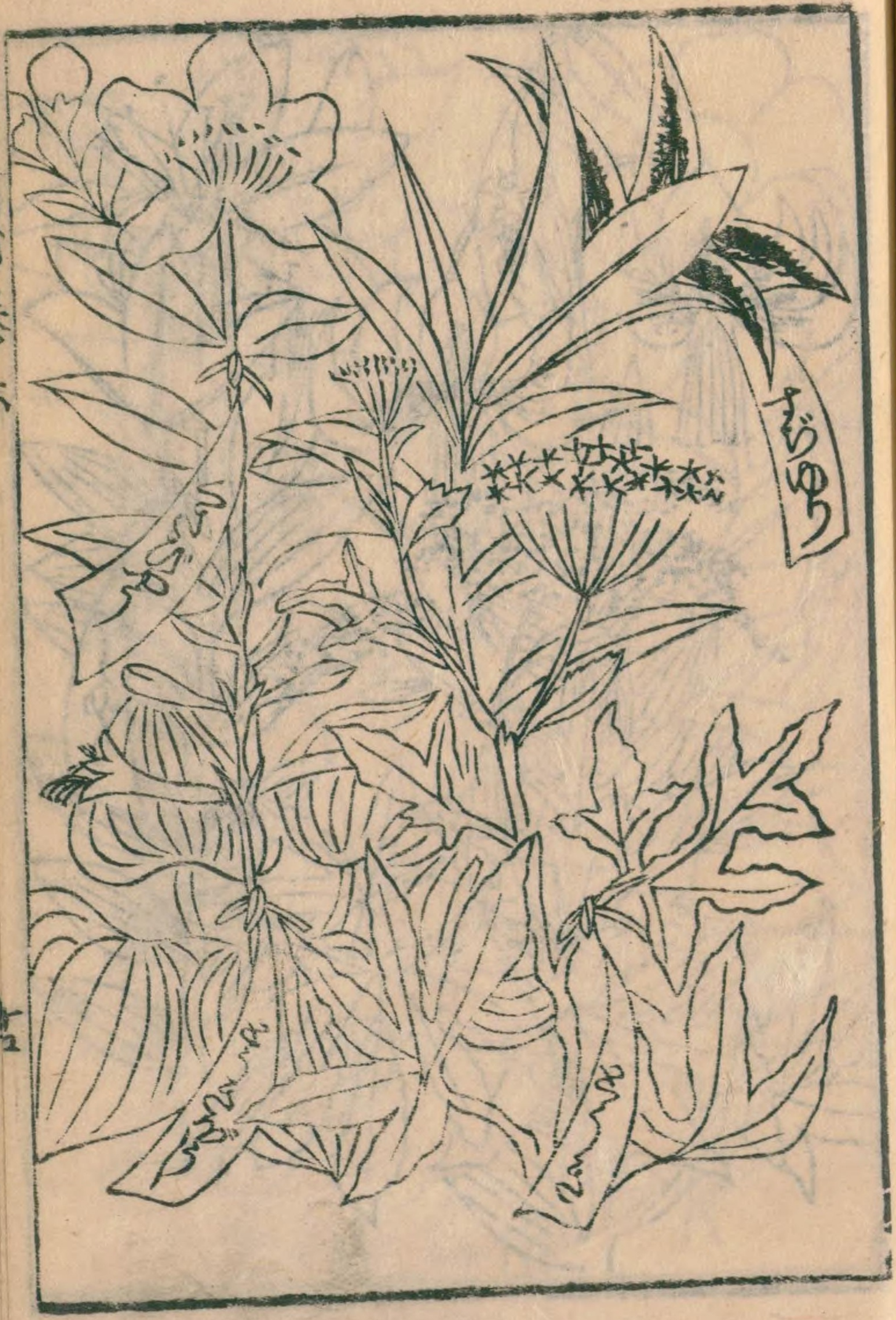

白松本せんをうけ
若女[illegible]
八重風車
さくらさう

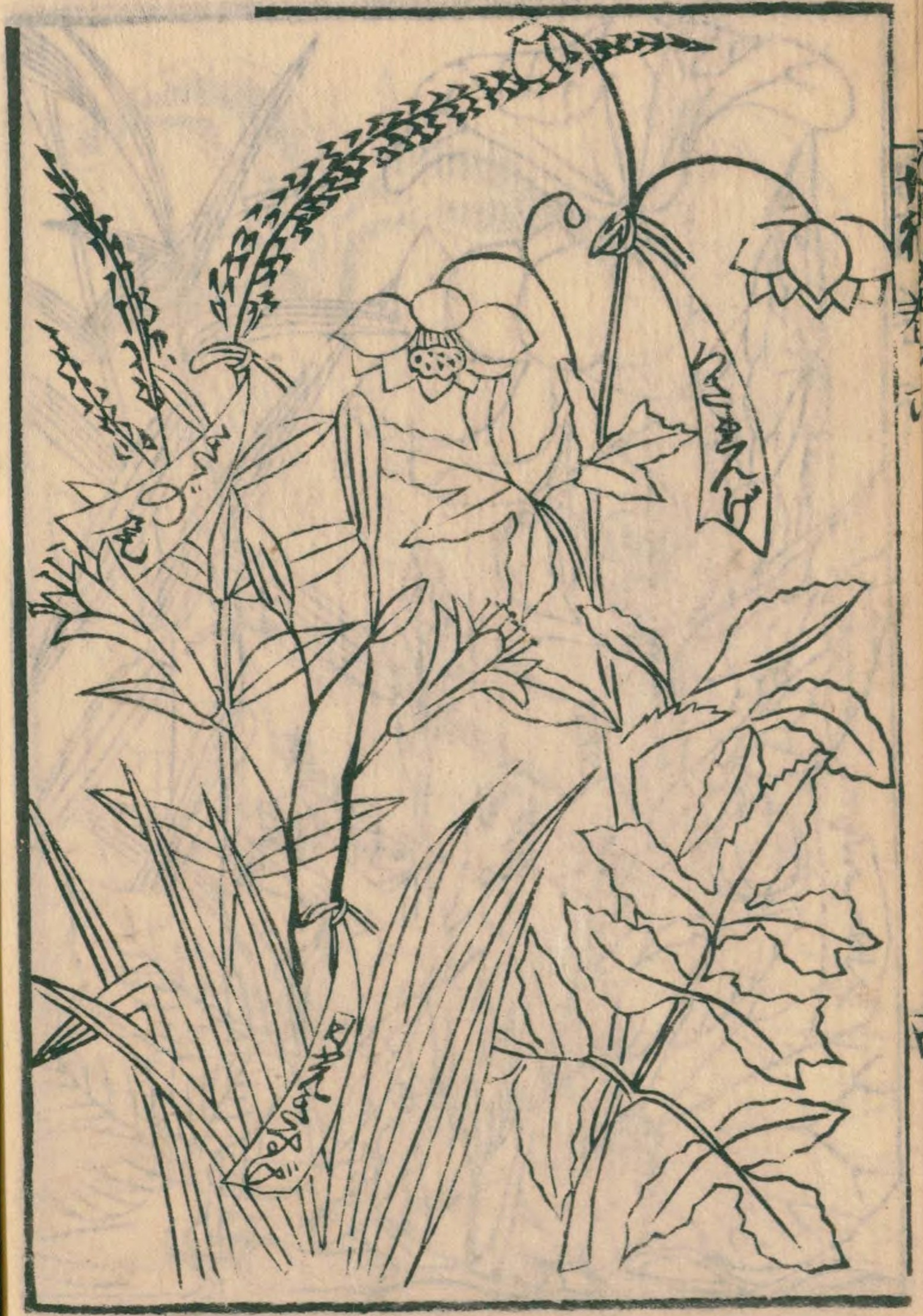

[illegible]之蓮
かうね

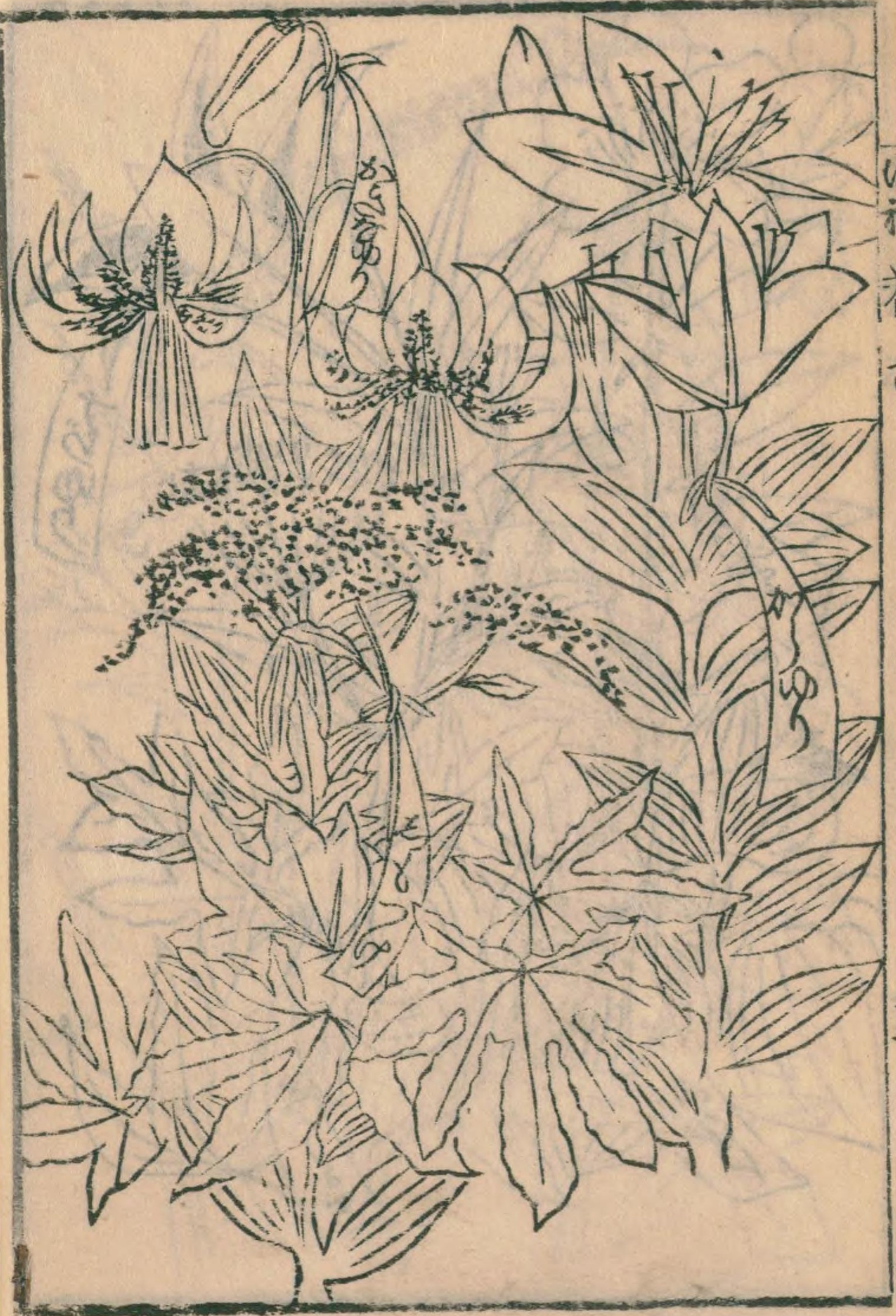

がま
みのろ

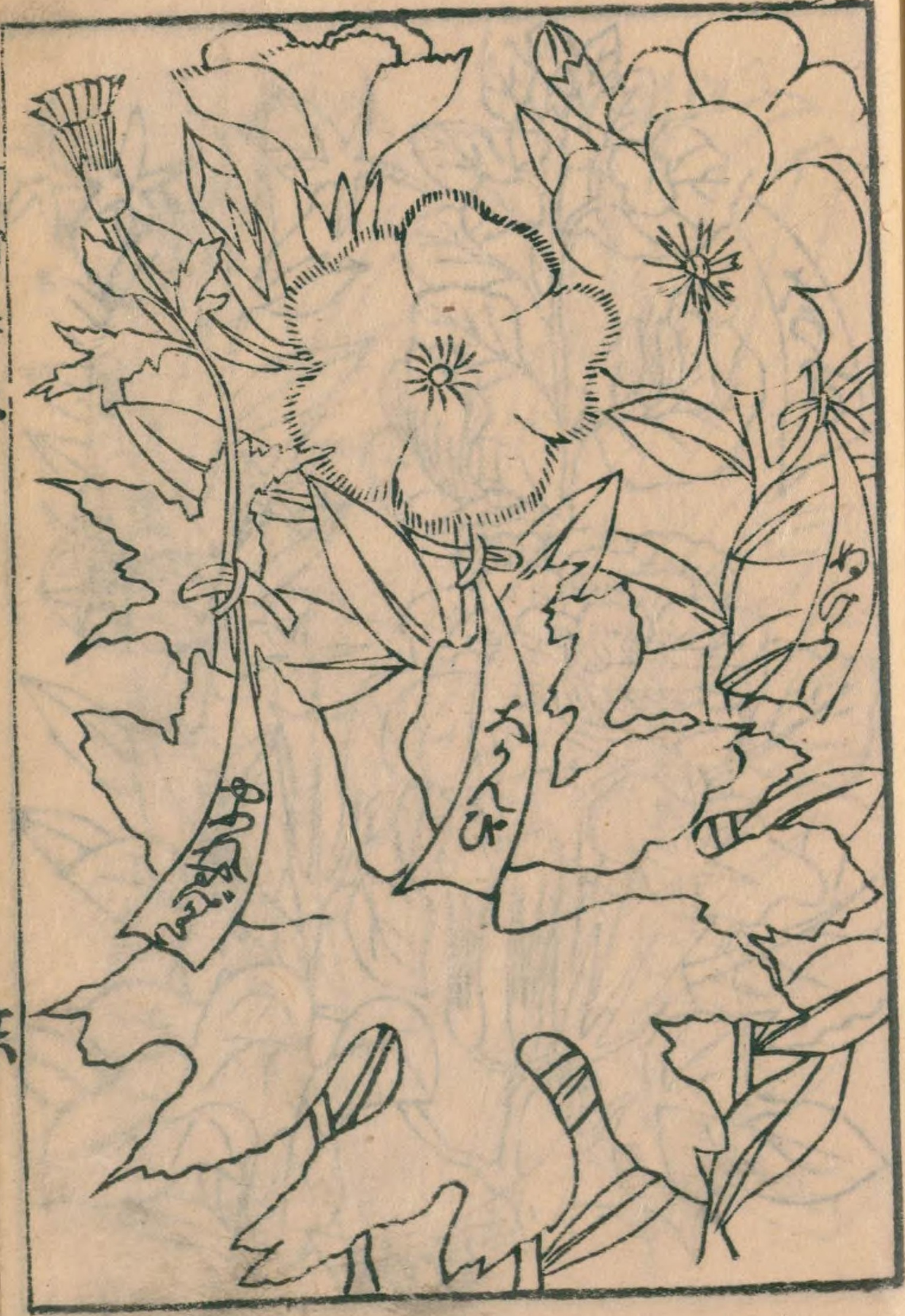


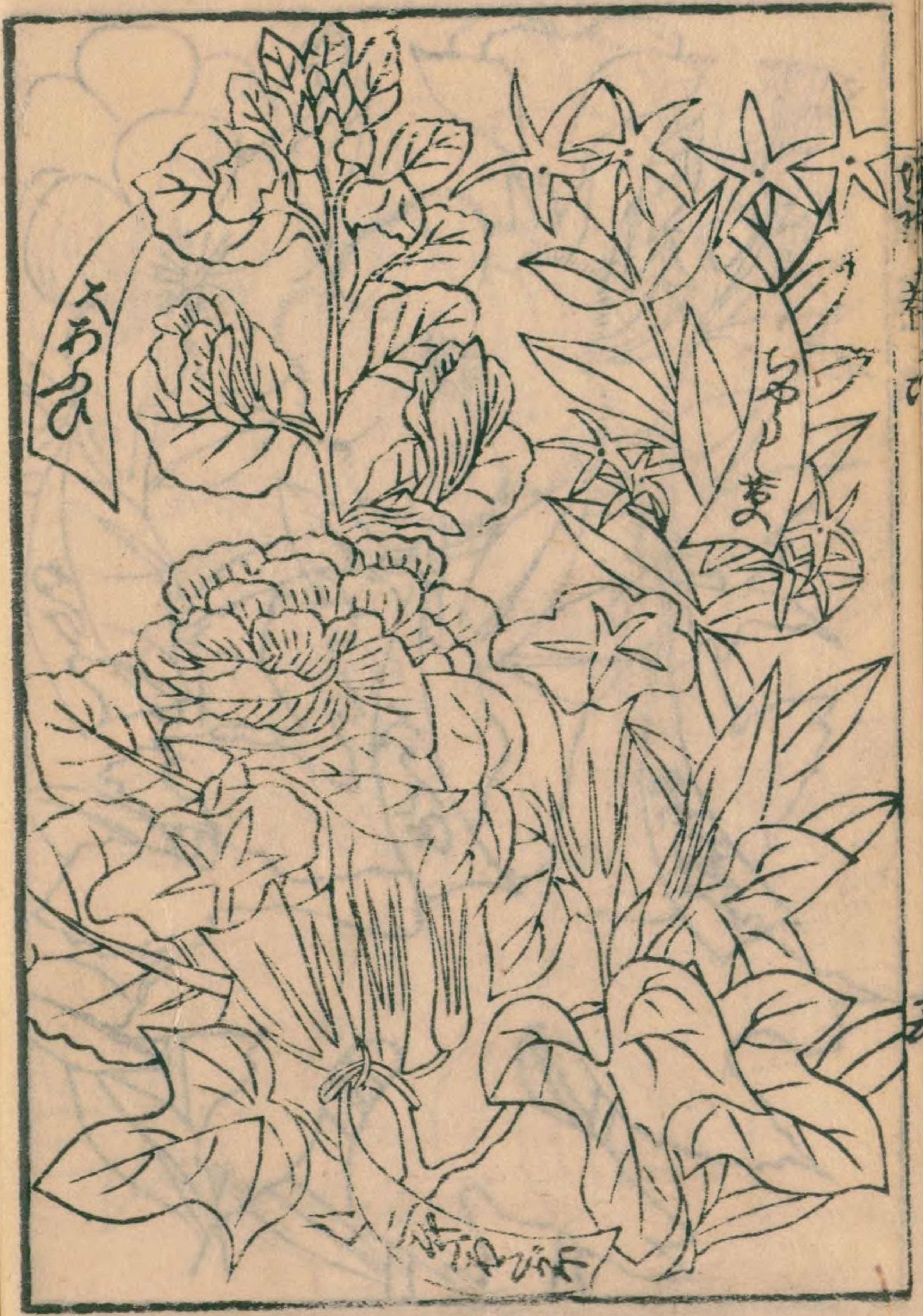

おもだか
ひつじ

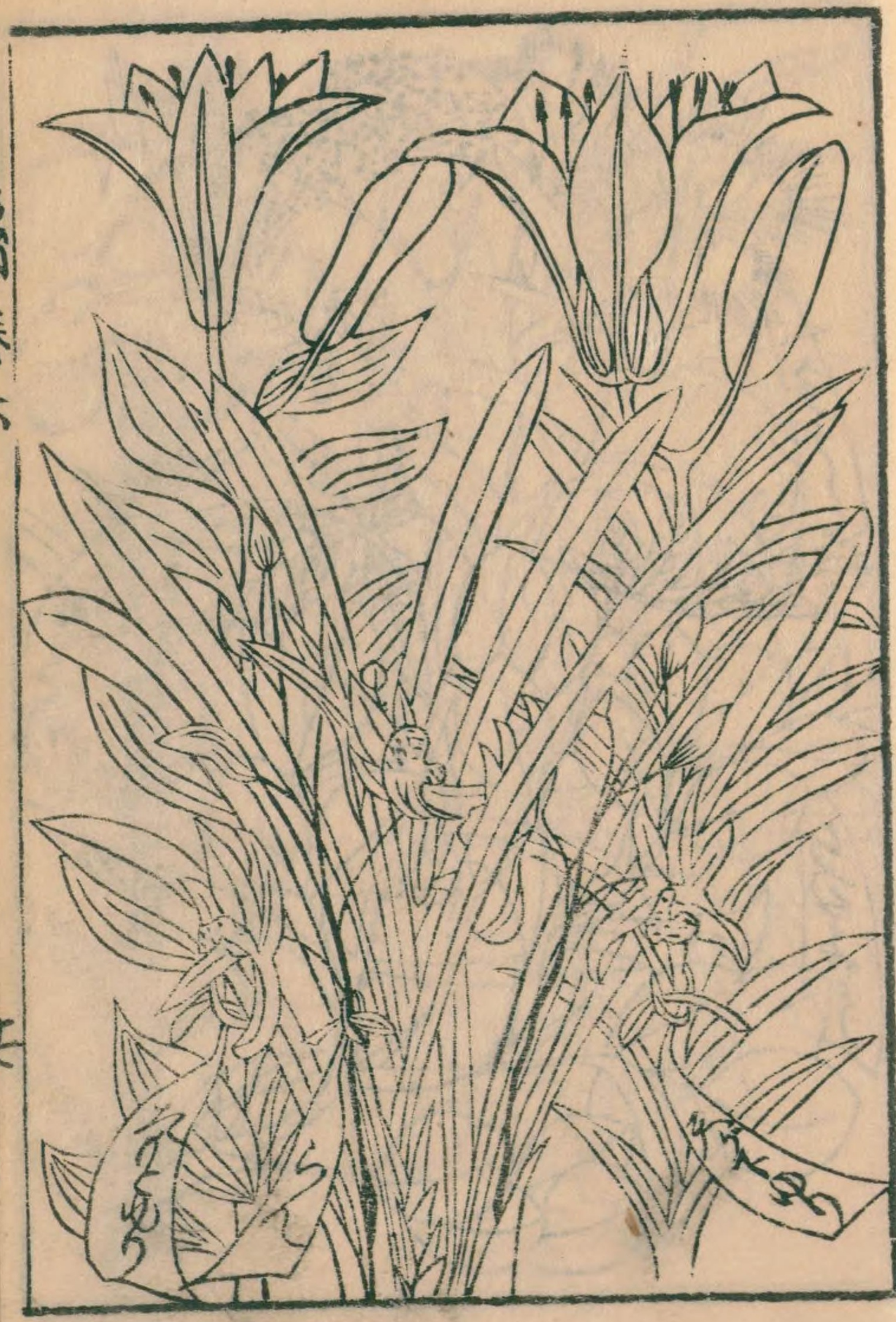

すぢゆり

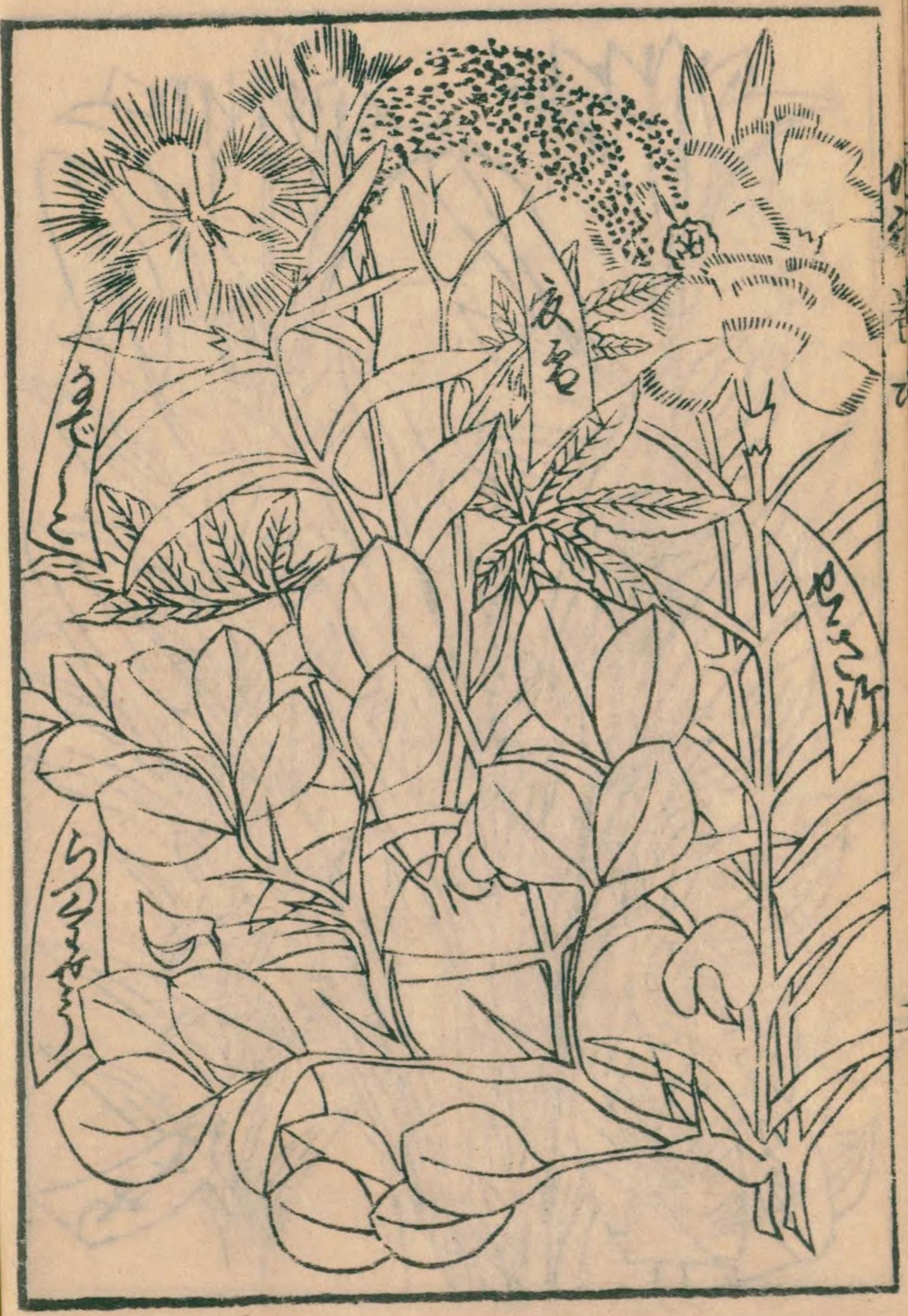


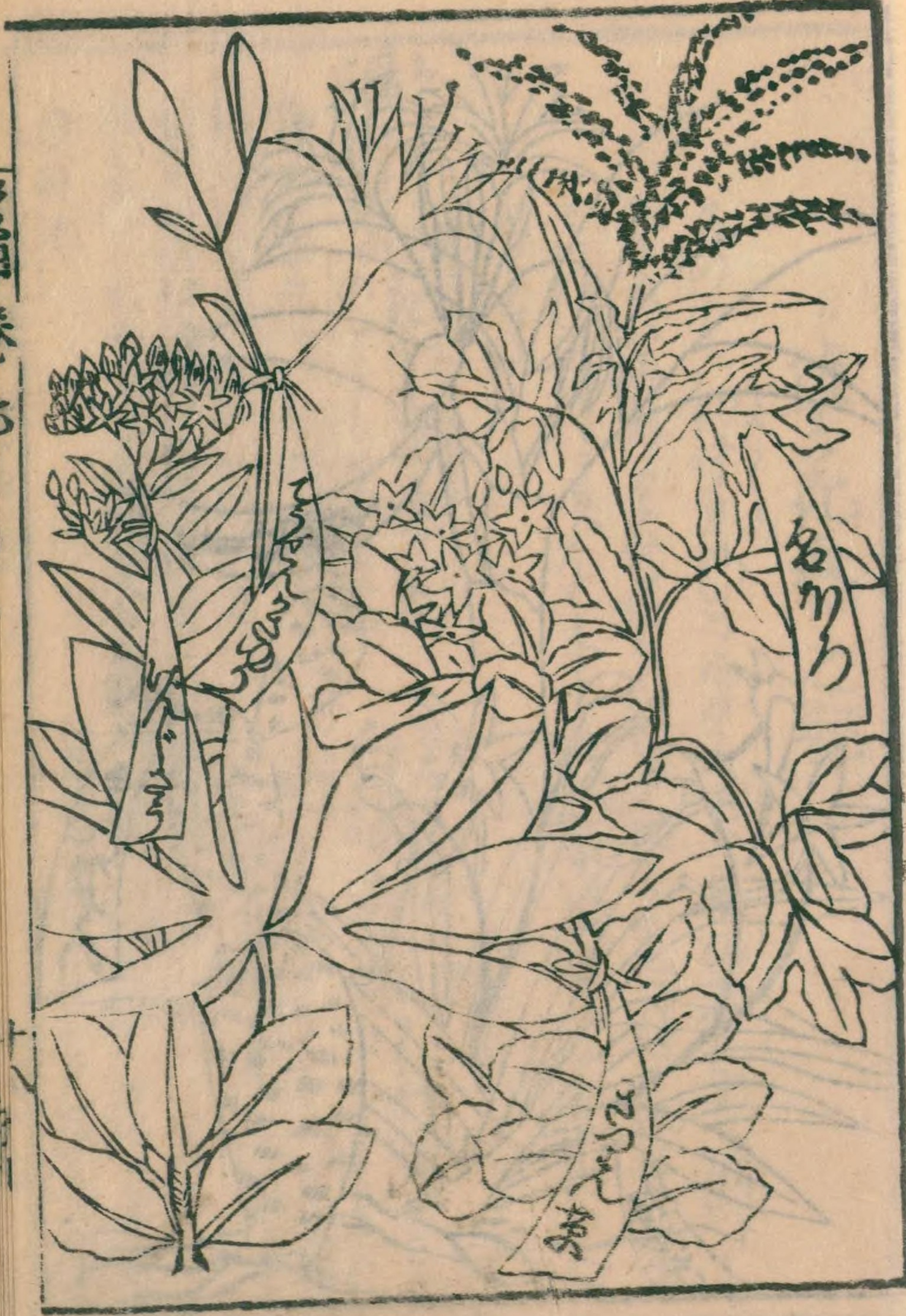

かのこゆり
さゝゆり
もゝち


わら
たうんひ
もみぢあふひ


大あふひ
ちやうし草
あさかほ


すかしゆり
ゑびね
らん


なでしこ
夜合


名かろ

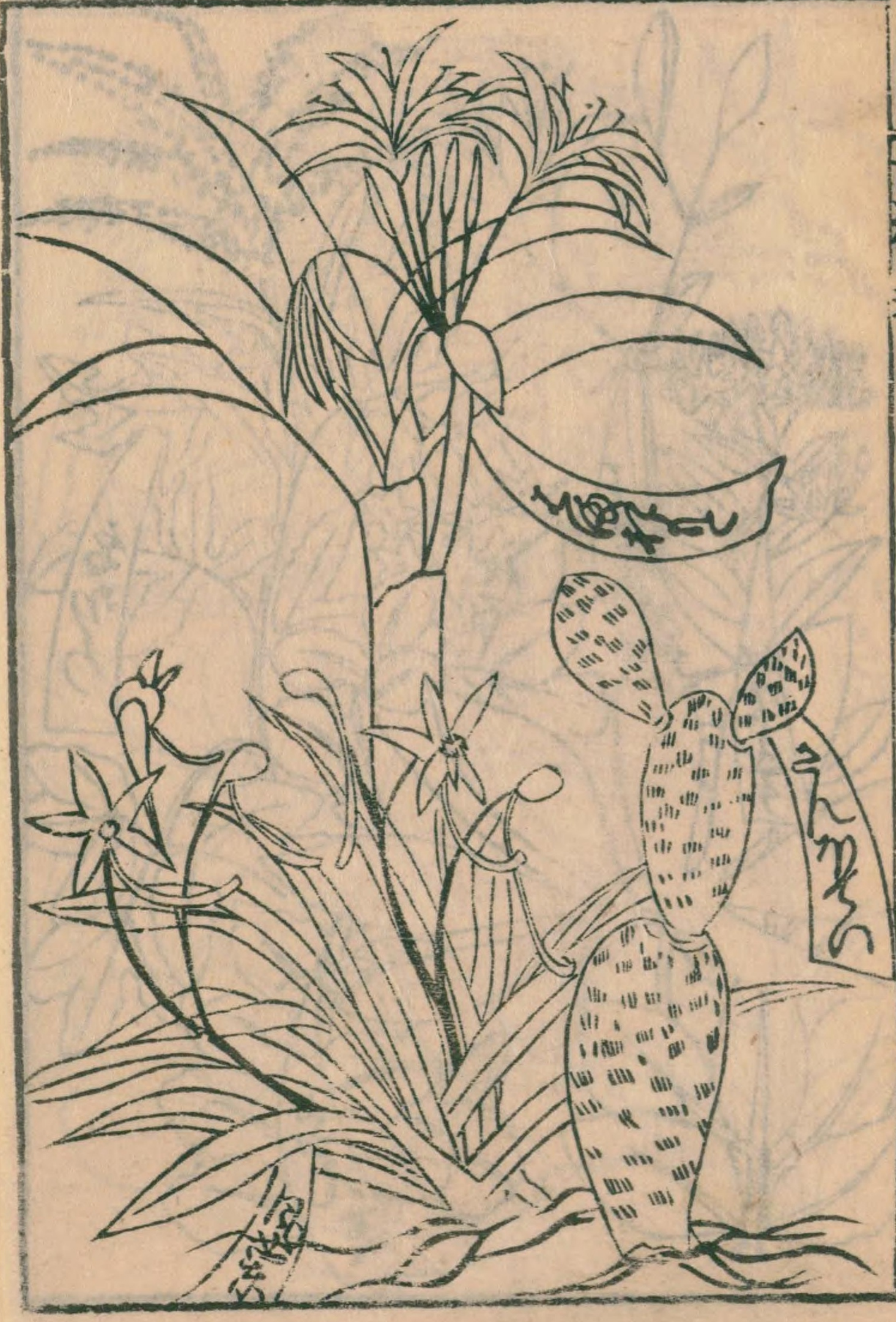
## 草花春之部

名の下ニ初中末（ちよちうまつ）乃三字あるハ其の草を三段ニして たとへハ正月より花咲ものを初とし二月ニ花咲を中 とし三月ニ咲ものを末とし又四月より咲草のるいニ しるす

**福寿草**（ふくじゆさう）初中 花金色（こんじきのひかり）の艶多く菊 のことし ちさき葉より ある小草なり花鉢ニ開（ひらく）よ 種よりにてもよし又根よりもふえて 盆栽咲ものあり。元日草とも ふくじゆ草ともいふ祝儀 の花也

**白福寿草**（しろふくじゆ）中 花形福寿草のことし色白 紫（むらさき）立ちいさくして一ツニ花一 つゝあつてさかず。はへうち 葉かた云

**菫草**（すみれさう）初中 花色白さはゝ さまざまありて 種もとこにむらさき花



児花（ちごばな） 初中 こいむらさき花形ちいさく 葉ハよもぎのごとし 茎ハ粉のやうなるごとくなるし

一つ葉草（ひとつばさう） 中 むらさき小輪也 一茎に一りんつゝ咲

いおからん○ 中末 花金色葉ハ蓮○のあふひに似てちいさき ようさ地なり

花鬘（けまん） 中末 花形かざりのけまんのごとく桃いろあり 葉ハ芍薬（しやくやく）葉のごとし

山吹草（やまぶきさう） 中末 花黄色葩四まいでる

---

いろく有 花数多く咲 小草の地に多く生て 花をつむよ まじりてよし

猩々草（しやう〳〵さう） 中末 花形猩々に毛ひろげたる 葉ハむらさきと白の二種あり

八重かつら○ 中末 おもかげ○の せんせうあり

他偏草（たひねさう） 末 花形ちやうのごとくさがり 岐に葉あり葉ハ白らんのごとし

色ハ黄葉ハ白らんのごとし 紋天目（もんてんもく）の花 生りまきよ 穂ぶきの葉植てあり 花を

倒萱萩（たんぐゐえきてき） 末 花形大豆の花に似て たんぽぽ 一名そうとう をのたいす

まゆみ草 中末 こいうすき紅ふり也 花形ハ苑女中 化粧（けしやう）の具のまゆずみのごとく 又白し

わうせいたう 末 こいむらさき葩（はなびら） げくさう咲 ながくさき 香（か）んくさせり 実ハ小角のごとし

白はぐさ花 初中 むらさき白せんやうたん かゝ有

沢車（さはぐるま） 中末 花黄なり 葉ハ菊のごとし

---

ほうれんハ夜かぐさくうつこやくさ 花も後より小の此う もゝ咲

花黄色白いらんさんきん色ひね

金盞花（きんせんくわ） 四季に咲 花形菊のごとし 又金盞花に花は

ほぐみ花 初 むらさき黄色まじりて中ハ 白い糸こあり

慶子草（ゆのこ） 中末 うすむらさき花に葉の形 葉しのこまのごとし

丁字草（ちやうじさう） 末 花形葉穂の丁子のごとし 葉ハ柳のごとく 花のいろハうすむらさき

黄蓮（わうれん） 花白小りんなれども二段かわり根ハ葉のわうれんに近し

くもきり 初中 花は紫と白の二種あり らんのやうに花さくなり

ゆり草 初中 花むらさき色小りん

春菊（しゆんぎく） 中末 花形きくのごとくひとへ みても中八重色ますあり しろし

紅黄草（こうわうさう） 末夏より 花形よし色くれなゐ 又ハ黄色も

踊子草（おどりこ） 中末 花しろし葉ハしそ茎（くき） その形編笠なり

---

ねぢまき 中末 花形はりがね草の ごとく下へさがりて 色むらさき葉ハ竹のごとく あくのごとし

金鳳花（きんぽうげ） 中末 花金色せんようのひとへ あり 銀鳳花といふハ 白ひとへ

のぢすり 中末 花むらさき花長寸 ぼうりの小草

滝宵草（らうしやくさう） 末 花白し多く咲くなり 葉ハささのはのごとし

黄花萱（さけまん） 中末 花黄色にして小ゆりのやう けしのへんより咲也

---

布袋草（ほていさう） 末 花形ふくろのごとくして白子 貝の形ありて色ちくさ ひとつきに葉も二まいづゝあり 花ハ一りんづゝ咲

熊谷草（くまがい） 末 あつもり草の花より すこし白き也

眉作（まゆつくり） 中 花形まゆをこえたるにみて 色白し葉ハやさしきと云

初ゆり（はつ） 初中 花は紫色にてひめゆりに似て 上向下へむきて花さく 葉ハ細く柳のやうにして茎 ごとくに一りんづゝ咲 高サ四五寸ぶんたのゆりとよぶ いふなり

---

紋盤草（あうりうさう） 末 花形其らん草に似て 葉ハまへかりもけさき ごとく葉ハ帽子に似る

天蓋草（てんがい） 中末 花星咲紫色小りん 葉ハりんどうのごとし 本名ハ二八ぶなすおとこといふ

春すかしゆり 末 色ありて大きく花咲也 志ろんとすかし大りん

まりこゆり 末 花ちいさく葉ほそりん

花けし（はなけし） 末夏初 源氏・白・牡丹・とさす すゞし・かのこさまかのこ 八重ひとへいろいろあり

ガラス使用

美人草（びじんさう）末 葉ハ花形けしのごとく いろハくれなゐ八重ひとへ白八重一重あり

春蘭（しゆんらん）初中 葉ハらんのちいさきなるにて 花形もらん乃ごとし

姫著莪（ひめしやが）中末 花形もしやがとおなじ のちいさきなり小杜若（かきつばた）に いつもふたつゝすいせん也

節季花（せつぶんさう）末 花も葉もせつぶんさう のごとく四季ともに咲

四季杜若（しきかきつばた）末 こらむしかきつばた四季に さく

九輪草（くりんさう）末 白。紫咲分源氏 ぐるまのやうに白咲とい八 れるゐいなり○保童花（ほうどうけ）○七段 咲といふ

じやまん 中末 むハあやめのちいさき物にて 葉も葉もあやめのごとく きやんとして又すぢけある也

著莪尾（しやが）末 うすむらさき色 あやめのごとし

紅葉葵（もみぢあふひ）中 葉ハ紅葉のごとく 一花二色又ハ二色も あふひ小葉も葉小葉ん ありけるなり 紫も白もあり 中

葉の形かうれてあらし 白紺ね わか葉草也 ○ふさ葉草也 はなし 夜雷をのぞ さて目 お菜草なり こぞ

萬精（まんせい）中末 葉ハ笹のごとく花白り 冬ニ根ハ黄精の黄 精也ハ花を見ず葉も 根ニわまこころとぞ

著莪尾（しやが）末 花形あやめのごとく 葉に白すぢあり

天南星（てんなんしやう）中 葉ハこんにやくの葉のごとく 花白とむらさきあり 葉相ニつりさき

菜のまう（きさ）中末 花黄色成小菜也

是迄春草之分終

△草花夏之部

但是より初中末の三字ハ夏三月にあり

○百合草（ゆり）のるひ

ガラス使用

**暮すかし** 中末 花葉ちいさく天とうけし咲花の色うるか
まくらし初秋のころまで花咲
ゆへ秋すかしともいふ

**紅筋ゆり**（すぢ） 中末 白色ちんニ紅（べに）のすぢと
よく立つ山ゆりなるべし

**黒紅**（くろべに） 末 花葉色のごとく色よきニ
紅くろこ色也 絹大きらん
紅ハ紫よりむハさしもう
七八寸ともありゆりの内にて花尺

**白黄**（しろき） 末 花白大りん花中黄色
ゆりのごとしかしも黄色さ
葉りくたくもえ葉も見事なく葉
そはとくかく細枝みえて稀なるは

---

**天目ゆり**（てんもく） 中 花形なすかしの
ごとくあさくひらくれ
ゐい江戸にてハさゝりゆりと云

**なるとゆり** 中末 花色白大りん紅すぢをうけて咲花あつく
葉もしくてそのとも葉細も
あしされいろの咲ぶり見ごとハ
そのゆりの九き物あり

**愛濃**（ちよまま） 末 花形ちいさく似てか
小ぶりくろべにより赤を
かり咲ものいちもひらく

**大濃ゆり** 末 花形すかしのごとく
花中のわれたるくまう
りの大こまかりのこゆり成ごとく

---

花咲うりまでにくましき細て

**武蔵ん**（むさしの） 初 花葉色かうんわくまを
下へむきて咲紫ハ車の
やうに二段かど二付り

**なめこゆり**（あさま） 初末 花形すかしゆりのごとく
横むきて咲く色紫金

**鍋金ゆり**（なべくろ） 初 花さてゆり形よく子
咲おてさみようの
めうしきつくや

**えかき** 初中 花形かうらうゆりのごとく
かゝみの紫香もあり

**姫ゆり**（ひめ） 初 花形ちいさくして小りん咲
むきて花咲色わうし

---

むてひらし

**車ゆり**（くるま） 初 花形たけしまのごとく
葉は車につきて細なる

**さゝゆり** 中 野ニ在る白ニ黄すぢある
むらさきゆりのごとくね
ゆりなりよ

**琉球**（りうきう） 初 花白中つるんのこゝへひきて
咲花形あくてもみる

**緋のゆり**（ひ） 初 花形ひめゆりのごとく咲
すぐれて朱のごとし故ニ
火ゆりともいふ文字立ひらくころ
ありてきも見事ころハむせ
ひらし

唐（から）ゆり　初　花形ひめゆりのごとく色ハ火ゆりのやうにしてあかく　葉花少はをまり茶立こうじうく　ちりめんのやうに細く

姥（うば）ゆり　末　花色白しかそて花の擬（ぎ）ひとさそてさく葉ハ大きくして花咲時分ハ葉落てなし

大ゆり　末　花形ひめのこゆりにかも　なが是すんまん　ゑかのことし・江戸みこえなり

白八重　中末　花形おほゆりの八重なれやうあをし白きをいふ

くるまゆり　末　花赤ゆりのやうに咲て　みごとくゆりに似す　かうし

南蛮（なんばん）　初　花形こゆりに同葉茎立　色ハかうゆりよりあかし

鬼（おに）ゆり　末　色赤く大りん黒ぼしあり　八重も鬼ゆりハむせんやう

鹿子（かのこ）ゆり　末　花紅むらさきかのこ紫のかしらて花そりかへりてさく

白ゆり　中末　花形ゆりの白きをいふ　是ハ二種あり花中ニ黄粉あるくりしもなりことゝよ　うす大きく黄粉わり細なり

赤ゆり　末　色赤くし黒のかり点　さゝゆりなどいふ

---

てうせんさいゆり　中　葉ハ車ゆりのごとく　すこし花形ひめゆりのごとし

るでゆり　初中　すかしゆりのごとく色わかしこどゆりも同紅く

こくゆり　初　花色くろさやう二光りまころりあまよみあり

黄孚戸（きひくさ）　末　黄色小りん下へむきてさく

かきさ孚戸　末　かきさ色

○

桔梗（ききやう）るひ　何も末ゟ秋初

金沢（かなさは）　中　花形すかしゆりのごとく　うすあかし

ゑちご　初　すかしゆりのごとくかうこ　色あかり

さゆり　初中　花ちいさく白の二種あり　あいづゆり　もゆるいこ

紅孚戸（べにひくさ）　末　花形黄孚戸のごとし　色紅

うす孚戸　末　うす黄色

ガラス使用

扇子猩々（あふぎしやうじやう）花あかりしんど赤き
ひらき花にて平ならず
そく紅の六弁のごとし又紅五六
九重八重七重八重にも咲事
稀なし

一重仏宝（えらく）ふかく　白は紫さきまけ

白二天　あかしろく

かさね色　うすいろきのなかにほのか
白地ようへもさく

○がんひのるひ

白がんひ　中末　花白くさく

仏台（ぶんざい）　白き花に紫のさしまざる
しぼ入あり

牡丹（ぼたん）花形より一重二重ありて二重二入の
てうすすこし大

ゑり八重といひしろきとせんやう

紫二重（しでまき）ひらき花なり

沢さけう（さるさ）秋初中末
さけうといへども花形
名別しるべしえおちの
ささむ葉のやうにひらく

秋の八重　中末　八重咲

---

松本せんおう（初中）けしみわし　秋の咲
ちよりわけよりみきあり
白松本（初中）せんおうけの白あり
きよう松本

撫節（きよふし）（末秋）花さるくきのゆへ撫ふ
しといふ色を赤ふしに
白ふしといふ

紫節（むらさきふし）（初中）みな紫がもきにし
さ花色も紫紅葉
撫節きさふしといふ

白八重なでしこ（初中）白せんやう

○瞿麦（なでしこ）のるひ

小倉仙翁花（おぐらせんおうけ）むらさき松本せんおう
けいろもみやうき
みよし（初中）

黒節（くろふし）（中末秋）花くろみがかり紅
よし葉の色くろき
ゆへくろふしといふ

撫節（なでふし）（中末）むらさき白みそへかくて
のぶみし白しなりも
くろふしよりさやく咲と
みゆる

紅八重（初中）くれないなへ

紫ゝ篭 初中 こいむらさきにせんやう

かまくらでしこ 末 うすむらさきにせん

むらさき地 初中 むらさきにせん

茶筅 初中 かはいろせんやう

やまとなでしこ 初中 ぎやまなでしことハちいさきあり黄色

ちやんし

○石竹（せきちく）のるい 初中

せきちくハなでしこを種よりなれバ花十色すこし八寸五寸ほど咲て近く色ゆへ古来（こらい）新花（しんくわ）の内ニへり千寿乃ちの種子よりて名をつけ某門数多名をさだて種能で尤もある

するが撫子 初中 かはいろせんやう

白かすり 末 白ひとへ

ちやうせん 初中 紅花ハ赤きひとへ有 うす白きもあり

路地撫子（らうぢなでしこ） 初中 白ひとへ

---

おらんだ 白赤しぼり大輪 ひとへあり大りん也 いろいろ香のよき

牡丹石竹（ぼたんせきちく） 花ハいせんやう

京小紋（きやうこもん） 八重 さまざまのいろいろくまどりあり 紋の様すをせきちくの 内ニハあるハひとつしるし 八畫工（ゑかき）も筆をおはげらんなし 八寸ほど一寸ほどもある

菜ゝのと 白地にて紅花のとおり 糸少紋のごとし

○葵（あふひ）のるい 中末

郭公（かくこう） 花せんやう大りんこさき 小りんの花ハよけい [illegible]

武蔵野（むさしの） せきちくの内にても大りん白ちりたる 花ハさしわたし一寸ほどあり 紋ハしとへ白。さらにさ。ひとへさき黒様なり

江戸紫 あるかなしといふ事多ひとへ

浅白 うすまよひとへ 其花の色うるハし 佐々源氏 [illegible]

れんかう 八葉ひとへあり花形紅錦の花のごとし

香白 はほそうしてひとへあり

うすむらさき うす緑に色白き ひとへあり

かおるひ 初中 花むらさき也葉ハさゝのごとし色よ

三月より五月迄 紫○白○源氏と

ゆうき花 ひとへも八重もあり

源氏 うすむらさきにて花のいろきれし 八重一重あり

くさ白 八重ひとへあり花の中白し又そこに紫あるを云ハ

花乃中あかし

---

## 蘭乃るひ 夏末秋初

蘭と蕙と藤袴ハその名好なりし 藤袴ハ花葉のことくみて見るに紫源氏蘭ハ香さらにて花のいと面白き

おなじ様の名ゆゑにまつてうたがひあやまりけるにや

又頌和名ニ布知波賀萬新撰萬葉集別用藤袴二字ヲ又本編蘭草葉如麦門冬長及一二尺花開時滿室盡香云ヽ時珍曰山谷所謂一幹一花爲蘭一幹数花爲蕙者蓋因不知蘭草遂以蘭花強生分別云ヽ私云藤袴花ハ粟ノ如ク蘭ハ花ニ香有リ蕙ハ今中絶シテナシ其形ゑびねニ似タル上テゑびねシリのくらひ者あまり誤リ蘭ト蕙ト藤袴ハ古来三種アリ

大蘭 花ハうす黄色のやうなる見ゆ 葉さきうりの肉ハうんくう 香わりて紫の色なるを蘭と 花ちて紫がかくえあふなりとよしとれ 大蘭ハ紫ふあるべし

小蘭 花ハ大らんのごとく葉さらにつくる葉ちいさくしげれてあり ひめらんといふ

白茎 葉も花も茎も白き色を上下ス今ハ中絶してすくなし かし 黒茎○紫茎○青茎上テ

茶蘭（ちやらん） 葉ハ仙蓼（せんりやう）ニ能ちかり似
て茎も互も毛ハ透す
花形ハ蓼（えそ）の穂よりか少似て茎ニ
あり仙蓼の間かハ臭香ことど
く室内（しつない）ニ薫（くん）じ香するの大蘭
まさんなり

風蘭（ふうらん） 葉ハこじのくせまきかう
のごとし花白し根を
竹の枝よはさみ中につりて置ニ
風を好て栄し

春蘭（しゆんらん） 葉ハ芸茅の細よくりし

ばらん 葉ハ大きくあつし花ハ
燈見 本草綱目馬蘭

---

いろ〳〵有大蘭ハ青茎あり又ハ
菖蒲（しやうぶ）蘭といふも大葉蘭と同シ

石蘭（せきらん）中 葉ハ春らんくらんがごと
のごとくにて根ハ石の上
よこにするゝ其苗のごとく紫ふ
の茎にも数寸花ハ紫茶
のごとしそう〳〵に花七八寸に
花ハ花形ハ伏蘭に似てかろきに
人こ号石蘭ともいふ

伏蘭 秋初中 花うすむらさき

日光蘭（につくわうらん） 葉ハ春らんのごとくにて
花ハ丸つみん茎のごとく

---

時珍曰其ノ葉似テ蘭ニ大キシ其花似
テ菊ニ紫也故ニ名ク俗ニ称スル物之大者ヲ為
馬ト云ヘル此ヲ也紅

紫蘭（しらん）初 葉ハさゝの葉ニ似て中く
花色てこむらさき

黄蘭（きらん）初中 葉ハあつかり茎のごとし実
のごとし花黄色

○ 花菖蒲（はなしやうぶ）るい 初

ろり人筌 はりくみのこさかくあり
えんのうくろ

江戸紫 こいむらさき八重
うすあり

---

るれ大葉ニ入名別あり
かくさゝてとりてきく又
こいむらさき卜白卜うす又
うさいろ紫色等之

白蘭（はくらん）初 葉ハ春らんよりみしかく
花白し

一 唐咲き 初 うすむらさき又ひとく

白 紫白ひとへ八重あり八重ハ少
さくら又

村雲　白ひとへにうすき花の
かすりあるしべあり

縮緬（ちりめん）　なかもりしこまかき
さきわり

花せうぶるいにかはりたるなり

○白菖（あやめ）草　初

紫あやめ　葉ハ花せうぶのごとく
あり　菖蒲　杜若に
較（まさ）葉強し、ゆかしくあやかれ
たる名別ちがいハ葉色にも
紫せんようしひとへなり

紅綬（べにえり）　むらさきのごとく白に花
うもんあり

紫縮緬（むらさきちりめん）　むらさきにちぢみたる
ひとへ

白あやめ　白し花の中黄色（きいろ）
八重ひとへあり

桜（さく）あやめ　うすさくらいろ八重ひとへ
あり

是までもあやめるい

一八（いちはつ）　春末夏初
一物たゞく花形杜若の
ごとく六寸の中ゆうに茎
白むらさきの二種あり

射干（ひあふぎ）　初　花よ葉ハ萱草（くわんさう）のごとく葉
白き斑あり故に錦名知れ
さしたいふ花ハ冬まり

黄菅（きすげ）　中　葉ハくわんさうのごとく
花形も似てひとへ

日光黄菅　中末　葉も花形も黄色
さうのごとく小さし

くゑうらん　末
きん下　花ありし葉ハすいせん
のごとく花の内ぶちなし
秋ニあり

萱草（わすれぐさ・くわんさう）　八重中　花形百合のごとく紅
咲る花ひとへもあり
此の花ハ喰て萱ハほとを
ちり菖蒲のたてに萱草を
水ニ入て聖霊（しやうりやう）に手向（たむけ）いて
ともすることゆへに忘憂（ばうゆう）といふ
萱草のまたや。詳又本草に
萱草煮食ハ安五臓、令人
好歓楽無憂、軽身明目云
萱草（わすれぐさ）ハ此種もありて忘れ
○みひて身のうさをも今ハ忘す
也葉をとりあつハさてら風のし
又そのすされば花しるきてゝ人にて
わすれ草をたゝバなびつりを思ひ

唐さんしゆ（からさんしゆ）　中末　花ハゆりのごとくみそく葉ハ花落て出る　かハらけ色のごとくなる実なる　しらふ天門ゑあたる

唐桐（とうきり）　赤紫　初中末ちる　葉ハ桐に違なし　木よりおよそ　ずいぶんおほきくなる　通用なり　花ハ桐のやうにたらりのびて咲　葉ハ三尺ほどのものもあり　かやうの花を見れバ梅のやうなり　されバ唐や桃桐ともいふ

下野草（しもつけ）　初　花ハ白し　葉ハ菊のごとく

南蛮野黒（なんばん）　中　うすむらさき又ハけしのせいハひくき物

てやうのはらんとゝりみちにて
花咲ぬ　すまれ葉ハ是ハ花やん
とこそ咲出しひし人もあり又
さしにおふて色よきすれ葉
○緑花の高さ葉花にまさる花
葉ハ緑花の葉にさかりのしめし又
色の葉しいふ　かたち似て葉に
ちる葉のなかにはすれ葉花いふ
○まだおけらのベと八月よりしあ
どこいさのぶよのる様也花え
越さよいふハ是葉れ花のかり
又花かなとはうらのくいふ

萱草（くわんさう）　初　花ハ葉の中より出る　中ハしろくみな小にして
らりのおもくつよく今の世にて

沈益（ちくりう）　初　白し

珠麻（せきま）　初　わかりのれごとく出る

紫珠麻（むらさきしゆま）　初　うすむらさきせい　ひくし

菊花（りう）　末　葉ハかうらん菊のごとく　花白きなし

かくろ草　初　冬白し花形かハりの葉ハ乃ごとく

某藤（きつさんさう）　初中　花ハ葉ハ小さし

まの下　初中末　ひ白し

初ゆきとてひらき花より八重咲花ハ蕾もとより　初花しいつれも咲花形ハ八重咲のごとし　枝ハ流るゝ　近年より長治二年六月二日西国ニ紀行ある時　かうらん咲花さかりにて舞代記にもありてさかへてかくのごとき人の書とこゝにはうしてあると云ひるなり

ざくろ　末　花ハ様々の

唐ざくろ　初　さいろの花ハ八重のつらくして咲花の

にほふ

車毛（くるまげ）　初　うすむらさきにて花形くるまの尾のごとし
車葉に似てよく咲く

ゆきう草　中末　花黄色く二三分ほどのびて咲

茴香（ういきやう）　中　花黄色ニ小薬のごとし
根ハ葉のやうなく

げんげ草　初　むらさきニ白まじり
葉ハちいさく小萩の如く

まうき　中　葉も花も萩のちいさき
のごと葉様あまうき

播草（のくぶらう）　末　花白し　葉ハものくぶらの
そのごとく紋さぶあり

釣鐘草（つりがねさう）　初　花形ハ釣鐘のごとくにて
ぶらりとさがりて咲
白紫うすいろ二種あり　燈籠（とうろう）
花大りんなり

きんせん草　中　葉大夏葉ハふとき
のはかれさう
りのく

草ひめう（くさびやう）　末　花黄色なりて葉ハ
ごとし　かしこきりさうの

ひあふぎ　中末　花黄色ニ小ふき星也
おそふ風車のごとく葉ハ丸し
花形ハ五星幼のもそ
花ニ根ハ葉様の座らんし

大坂ひあふぎ　中末　花葉ひあふぎのよう
ごとし　葉ちいさき
ありてちいさくやさし葉の様
なりそるんで咲ひあふぎなり

山郭公（やまほとゝぎす）　中　花のなかにまだらあるさきの
羽のごとく葉ハちいさき

むしやうえんどう　初中　花むらさき色紫
もよう

るり風車　初　るりいろ世に
花形ハ風車の如く

朝鮮良薬（ちやうせんりやうやく）　中　花ハ葉も形さん
ちいさくいさくにてせい
ひくきもあし

うつぼ草　初　花むらさきにて花

えんげいやう　中　むらさきひた
葉ハ白くそげる

風車（かざぐるま）　初　花形くるまのごとく色
白うすむらさきあり
さしなるあり

鉄線（てつせん）　風車のるいなりて白紫
の二種あり花後に中
の蘂乃とりせんやうなり
葉のごとく枝葉ちいさき
ありきあり

六十三

○朝顔（あさがほ）　夏末より秋

白あさがほ　蔓（つる）よりからまりてあさがほにして白し

浅黄（あさぎ）あさがほ　あさがほのあさぎいろ

二葉朝顔（ふたば）　るりこんいろ　とまりのさきにて葉二つおいば花さくらあさがほかたちよし

白ひるがほ　色白大りんあり　ひるがほハ昼に花盛　あさひるがほハ朝日に花咲てあり

---

赤あさがほ　うすあかし

るり朝顔　るりこんいろ

長崎朝顔（ながさき）　葉ハ大キク　房ごとに若葉のごとく　似かく花形ハあさがほのごとくに色白し　くろみそらにたなびく

あるひるがほ　赤及益紅（えんこう）ありうすあかし

---

南京夕顔（なんきんゆふがほ）　中　種夕がほのごとし

栝樓（からすうり）　末　花白し　実ハ丸くあかり　からすうりの花より実ハ大きくして丸き　外ニ二種あり

狗尾（ゑのころ）　中　花形ゑのころの尾のごとく　くらすほく

紅蓮花（こうれんげ）　末　花形もれんげのごとく　うすもんいろ　うす色花下へむきて咲

石斛（せきこく）　初中　葉ハ竹の葉のやうにして茎長し　本職のごとく白し　花さく石上に植てよし

---

夕顔（ゆふがほ）　白し　瓢のなりハあるいはくびながく　ひさごちのさし

虎尾（とらのを）　花形をしてまがりくる穂白し　夫の末に咲て秋の初に咲　二種あり末に咲ハ山に生ず　秋咲ハ田に生ず

梅花草（ばいくわさう）　中　花形むめの花の如く白し　あつしきさ花あり

芭蕉（ばせう）　夏ヶ初迄　花うす黄ニ又まくきやうに　ゆる葉ハ大きク　如此　ぞり

涼おのゝと　葉ハおりしのごとく花白しまた唐べにあり

○ 甘菊のるひ　初中

裏秋論　うすき黄色な中りん

黄水楊　花形すいやうひのごとく　みそて黄色な

玉牡丹　さくらいろなのりあげ中　りん上々

たいさよなんあげ　うすむらさきくれなゐ

宇治川　黄色大りん

水楊妃　上々　白八重まるきんかうさき

唐から水楊　さくらいろ大りん

砂金　秋さくのきやきんより　花形おしまり

小紫　むらさき中りんより　小ぶりなり上々

ありはけ　きなとし　くりん

黄大白　黄いろ大りん

黄一文字　黄いろ中りん

南京紫　むらさき大りん下　花は紫ともいふ

南禅寺　むらさき中りん

黄八重西　黄色のりあげ上々

○ 水芙蓉のるひ　末々秋

蓮花　花白くうすべにいろくさ

きつまん　黄色のりあげ中りん

あらまし　黄いろ中りん

ほうけう　黄いろ大りん

高さう　白かうらいあり

黄匠　きいろまるまんまるよ　花形

唐蓮　末々秋　花白き八大りんくれないハ小ぶり葉ハつねのまん　葉ハ同しかこの點拙に植て

金蘂蓮（きんずいれん） 末ゟ秋 唐土ゟ来る花すいれんに似て金色の花なり

小蓮花（これんげ） 中末 花白くちいさく葉ハ水あふひのごとくちいさき花 葉あをみあり

白水あふひ（はくすいあふひ） 秋初中 花形椿花のごとく色白し

沢瀉（おもだか） 夏ゟ末 花白し葩（はなびら）ハ三ツにわかれる

黒くわゐ（くろくわゐ） 葉ハほそくまろく燈心草（とうしんさう）の如く花ハちいさく根くわゐのごとし

葦（い） ほそくまろく燈心に用ゆ 葉あをみあり

花咲後南京繁くてまるき種あり 実生ハ秋植てよし

水あふひ 秋初中 花形梅花のごとく まるき葉あり

川骨（かうほね） 夏中ゟ秋末迄 花金色 茎一本に一りん づゝ咲葉ハ丸く草履のごとし

白くわゐ くわいのこと 葉ハおもだかに似て花も咲なれども根ハ大きく

ふとい 丈ハ長く水中ゟ出る七八尺斗一ふしに根ありて 葉ハなし 一名いなばいふ

星草（ほしくさ） 四月ゟ八月 葉ハ細く芝のごとく茎ハ中よりいづる 茎ほそく長く花ハ星のごとく 本草綱目ニ戴星草。文星草。流星草 時珍曰穀田餘気の所生皆 穀星白花似星故皆有戴 星ノ諸名ト云々 夏ゟ秋迄

菖蒲（しやうぶ） 端午に軒をふく草也

鷺草（さぎさう） 末秋 六七寸斗の小草也 花形さぎの飛形に似て少も違なく茎一ツに二三りん咲 よきかうあり

蒲黄（がま） 秋中 葉ハ菖蒲のごとく穂ハ蠟燭のごとし 夏花咲

穀草（まこも） 葉ハ大きくのびて花穂ありて

鬼石菖（おにせきしやう） 葉ひろくながし 似たれ共菖蒲にあらず

猫爪石菖（ねこのつめ）　葉かたくほそく立　まつすぐに上へのびし　葉先（そきさき）とがりてさきてかたし　是いまだしらず

唐石菖（からせきしやう）　葉のびちゞみ多を　こまかし

菱（ひし）　葉水のおもにひろがりうき　ゆるみて車のごとく葉の　下より葉をのぶる

稲（いね）　品色おゝくそのうちかくの稲を　だいとうといふせいひくし

黄石菖（わうせき）　葉形くきにくるみて二三尺立　きやんをたゝず段々まし

琉球（りうきう）　かうばしきせうのるひ　葉大きくつよし

蛇床（ひやうたう）　葉ありてもう水上につうそひすなる

蛭床（せつくさう）　葉かのおもひのごとく　ありてうしむらさきの　花あり

かりもし　葉あつくかゝくまいし

○

杜若乃るひ（かきつばた）

初中

鷲尾（わしのを）　花むらさきにて中に白き　筋ありしべのごとく細　おとこまひでさし有ねあり　是もるうこん多く

橋姫（はしひめ）　むらさきのごとく生そち　のさうはかりぐをなす　大つやんし

鶯（うぐひす）　白花に細くとそすり

ご極め　白てふすは薄紫なし

羅生門（らしやうもん）　花むらさき多し

村雲（むらくも）　白花にるりのあいの筋　さのごとくあり

濡鷺（ぬれさぎ）　むらさきいろあさぎいろ

四季咲（しきざき）　るり色の花四季共咲

白　白に二種あり一つは見ろいろ花　中に葉のさしうろひの　かり白といふはろひよ上々

182
20
158

八葉 せうさいの花に八葩あり

ろくやう むらさきの花ひとへにして葩六
六葉 きんしつあん
やつはし らんむらさきの花葩前に葉
八橋 一まいひて あれ見え よろしき
つぼみのうち ひらく 葩十一枚
花三度づつ咲 抱あり 肥るゝ
むかしの通り咲一ぐん おこる花番
花しらふ

水草之終

ガラス使用

182
合 10
158

帝國圖書館藏

ガラス使用